166
629

歴史美術
名勝古跡

京都案内記

全

特49
636

京都案内記

緒言

日本は世界の樂園にして。京都は日本の樂園なり。實に京都の山水は。温潤清雅造化の妙を極めて。而してその千歳の遺物は。瓊瑰璀璨皆丹青刀斧の精に入り。村里閭巷至る處として。佛刹。神祠。殿宇。苑池の。清流鬱林と相倚りて其美を逞ふするものに遇はざるなし。蓋山水の美は。人工の美術によりて其色を増し。人工の美術は。山水の美に就きて始めて光彩を闡發するを得べし。京都の樂園たる所以。豈偶然ならんや。

予内しらくこの樂園に住し。縑緗の展閲既に勞を覺ゆれば悠然出て〻園内の精華を含ひ。凡名勝古蹟の地。彫畫文書の類。史學美學の裨補とあるもの。みな就て究めざるなし。故に

言

今予が微かびくしたこの案内記を揭くる如きは。座ろに遺憾の念なきにあらずと雖てれども我史學普及雜誌所載の案内記を再版して聊世の便覽を謀ふんとするにあれば乞ふ世人之を許せられん事を。

史學普及雜誌主筆　廣池千九郎識

目次

一　名所巡覽の日割
一　京都市内
一　東山北部
一　東山中部
一　東山南部
一　北山
一　西山
一　山科及醍醐地方
一　洛南
一　比叡山及近江八景
一　宿泊案内
●博覽會々場案内記
●桓武天皇詳傳

京都案内記

京都名所巡覽の日割

「ふとん着てねたる姿の東山」は。「常にたにさやけき者を夕立のあふひあげたる加茂川の水」と相映して。紫明の勝天下に優り。嵐山の花高雄の紅葉は。鴨東婀娜の佳人と其美を競ふて共に海内に鳴り。九重の都は千代の壽をこめて。嚴然其形を存し。五十有余の各宗本山と。三千有余の神社佛閣は。東洋宗教の中心として世界に仰がれ。又寶器文書の淵叢として全國に喧しく。幾多偉人の苔蒸せる墓。千古變遷の名跡舊地等。到る處に名殘を遺して行人を留め。凡山水の勝。花月の眺。風流卽酒色の樂。宗教の尊。及歴史美術の材料。一も具備せざるなし。故に遠來の人。之を巡覽せんには。須ふく注意せさるべかふず。今左に其巡覽の日割と。各名所の特色とを示す。

●初日……京都市内
●三日……北山及西山
●四日……醍醐、宇治、伏見、以上京都の方面なり
●五日……叡山及近江八景
●六日……八瀬大原
●七日……西山及八幡山崎
●八日……笠置山地方
●次日……東山

特に著名の美術品を藏する所

東寺、西本願寺、北野社、相國寺、東福寺、知恩院、南禪寺、百万遍、大德寺、仁和寺、妙心寺、高山寺、廣隆寺、二尊院、大覺寺、釋迦堂、往來極樂院、壬生地藏、醍醐寺、日野の藥師、

特に著名の建築と稱せらるる者

桂宮院廣隆寺内、金閣、銀閣、二條城、往生極樂院大原、醍醐五重塔一切經藏三寶院、平等院、智恩院、飛雲閣西本願寺、東本山御影堂、叡山大講堂、

市内

●京都七條ステーション　一聲の雞鳴夜色の酣なるを報すれば。一番氣車に乘り後れじと我先に駈け集る。これを其日の手始として。半宵草木も眠るころまで。腕車の磔々たる音象笛の瞢々たる響。幾多の人聲に和して喧囂耳を聾し。肩摩雜踏倫兒跳り野夫狼狽する場こそ。即音にきく花の都の入口なる。東京大坂行鉄道の停車場ありけれ。一棟の洋館は雲表に聳へ。數條の鉄軌は長蛇の如く横はり。明治初年開業の日より。今に至りて畧廿

年。結構益備はりて。宏壯盛美の狀予が云ひ盡す處あらず。而して電氣鉄道は之より直に博覽會場に通し此間凡一里賃錢五錢なり木屋町三條小橋宿屋の多き處を經自在に飛乘り飛降りを許せば其便利云はん方なし

●東本願寺　七條停車場の前面。烏丸通を北行すること二三丁にして門前に至る。之を大谷派本願寺とす。今を去ること三十年前。世は苅菰と亂れたる。元治甲子元年の七月十九日。長幕不慮の戰にて。當寺一時に災上せしこと。皆人の知る處なるが。其後同宗のもの。繼白上下の別なく。皆膏血を茲に集め。御影堂は明治廿二年五月上棟の式を擧げ。總高十二丈六尺六寸。南北桁行廿三丈。東西桁行十九丈五尺。二重屋根にして。上層屋根の廣二千三百卅坪。大柱九十三本瓦十七万九百四十四枚。疊九百廿七枚實に世界中木材のみにて建築せし家屋は。之を以て第一とすと云。大工棟梁は尾張國伊藤平右衛門と呼ぶ名工にして。方に明治建築史上の偉觀なり。阿彌陀堂は廿五年十月の上棟にて。瓦數十二万九千九百六十二枚と云。其他推して知るべし。棟梁を京都木子棟齋とす。両堂巍然として高く蒼溟を磨し。飛禽軒端を舞ふて流鳴の響騒々たり。御影堂には見眞大師自作の木像を安

長三尺五寸もと上州庶橋。阿彌陀堂には安阿彌作の彌陀の立像を安す長三尺位抑當寺は慶長し妙安寺にありしものなり

七年德川家康の命をもて顯如上人光佐の長子教如上人光壽の開く處にして。其創立以來既に三百年許を經過せり（顯如上人の三子准如上人光昭故ありて秀吉に寵せられ本願寺をつぐ家康よりて後に光壽を封し當寺を立てし也）此東方三町富小路上珠數屋町の西南に當寺の別邸枳殼殿あり。林泉花樹の美を以て著はる。此地は即河原左大臣源融の淳風堂河原院の跡あり。當時太臣月次廿石の潮を汲みて邸内に鹽竈の景を寫し出したること人の知る處あり

西本願寺

東本願寺の西數丁。六條油小路の南西にあり。始見眞大師の女覺信。當寺を東山の吉水北大谷即今の知恩院の門北に建て。勅願寺となりしが。八代蓮如上人大津の近松及山科等に之を遷し。更に大坂石山に遷す。十一代顯如上人信長と戰ひ。後和して紀洲鷺森に遷せり。天正十九年八月遂に今の地に遷す。御影堂。阿彌陀堂。共に宏壯にして東本願寺に亞ぐ。諸堂諸門整正。人をして一見非凡の靈場たるを知らしむ。南に唐門あり。左甚五郎の彫刻あり。書院美麗にして金障皆狩野海北諸家の名筆に成る。飛雲閣は聚樂城より引きしものにて。床間の元信筆の雲隱れの月の如きは。光線を繪畫に利用し。宛然西洋パノラマの濫觴をなせり。

當寺の南隣に。當寺の大學林及眞宗興正寺派の本山あり。有名なる島原の遊廓も當寺の西南三四町にあり。

本國寺

西本願寺の北隣。松原大宮南東にあり。日蓮上人もと建長五年八月鎌倉松葉谷に建立せしものにて。日靜上人に至り。足利尊氏の叔父なるを以て。光嚴上皇の勅により。茲に遷す、今日蓮宗の大本山にして。有名なる立正安國論等を藏す。

東寺

九條大宮の北西にあり。延曆十五年詔して鎮護國家の爲東寺西寺を左右京の九條大宮に建つ。弘仁十四年其傍にある處の。東西鴻臚館（外國使節を宿せしむる所）を七條朱雀の東西に移して。いよ〳〵當寺及西寺の境域を擴め。當寺を以て弘法大師に賜ふ。之より眞言宗の總本山となり。以て今日に及ぶ。敎王護國寺の号は。天長元年朝廷より賜ふる處なり。金堂。講堂。五重塔高卅五間等。皆三百年前の建築にして。西院は。後醍醐帝隱岐より還幸の時入り玉ひし古跡なり。唐人筆七祖畫像七巾。山水屏風六枚。宅磨勝賀筆の十二天屏風。弘法大師行狀繪卷等は。天下無比の奇品にして。且當寺は尤文書に富み。東寺百合文書の名は。數百年來歷史家の嘖々する處なり。

此西方一丁にして四塚あり。即古の朱雀大路の南端にて。羅城門のありし處なり。

●因幡藥師　東本願寺の北七丁。高辻烏丸南東にあり。長德三年。因幡賀露浦に漂着せし釋迦如來自作の藥師佛の像を。國司橘行平携へて京都に歸り。之を己の宅に安す。即今の地なり。高倉帝平等寺の額を賜ひしより。今に諸人の敬仰淺からず。門前常に詣者の迹を絶たず。

此東北二丁に。眞宗佛光寺派の本山あり。

●六角堂　因幡藥師の北六丁。六角東洞院北西にあり。聖德太子の御持佛金銅如意輪觀音の像を安し。西國十八番の札所なり。堂宇精麗常燈の光微妙にして。昔親鸞上人黑谷より參籠せし靈跡なり。

此西方數丁蛸藥師堀川に。空也堂あり空也上人開基にて所謂空也堂。のぼちたゝきの出づる處なり

●新京極　六角堂の前を東に行くこと八九丁にして達す。寺町通の東に並ひて。三條と四條との間に南北に通ずる一條の繁鬧地。即新京極なり。芝居。見世物。雜貨舗。飲食店。隙間もなく軒を並べて。新を街ひ奇を競ひ。殊に芝居には。常盤座。巽谷座。堺座。

福井座。羽村座等ありて。奇席俄と共に美麗なる看板を掲げ。行人旁午織るが如く。雜踏の狀は四時晝夜田舍の氏子祭に於ける相撲場の如く。「オ入リヤース」の聲に驚かされて石に躓く田舍者あれば。看板に見とれて懷中を掠めふるゝ馬鹿者あり。宵間の電燈は宛然たる不夜城の觀を呈し。人聲湧くか如く耳目爲に廢せられんとす。方に大坂道頓堀と共に我日本の二大壯觀なり。而して此芝居はもと五條通にありしが。秀吉伏見城より京師に朝する途に中りしを以て當時令して今の地を開かしめしものといふ。此町内に四條道場六條道場及誓願寺あり共に一遍上人繪卷物其他の畫幅を藏す。

●四條橋　新京極の南詰は四條通にして。之より東行僅に二三丁にして。橋上に出づ。橋は鉄橋にして明治廿七年の改築に係り。結構壯麗行步尤便なり。古來四條河原の納涼と稱するは。則毎年夏宵都下の士女此橋上橋下に群集して。鴨江東山淸玲々たる水烟涼風に浴する樣をいふものにて。鴨河の性たるや。往時は水多く常に氾濫の憂あり。故に王朝の頃には「防鴨河使」の設さへあり。近世にありても永祿中大雨の氾濫して。萬里小路まで浸水せしこと室町殿日記に見ゆれど。今は水源樹木を伐採し。爲に大に涸渴して。平時は

觴水脛を濡すに至らす。故に河中に棧床を構へ。茶店。料屋店。氷屋。餅屋。爭ふて客を曳き。殊に此地西岸は先斗町の遊廓にして。東岸祇園町。宮川町の遊廓に對し。且府内の中央に位し。四通八達の要衝なれは。見ふる限は人の山をなし。燈火相連りて。管弦の響四方に起り。烟火時々中空に舞ふて。更に其興を盛おふしめ。方に人間社界の盛狀を極む。

本能寺　寺町通姉か小路北にあり。日蓮上人勝劣派の一本山とす。もとは六角南西洞院通元本能寺町にあり。信長の戰死せしも其所なるが。慶長中秀吉京都市區改正の時今の地に移せしものなり。

本能寺の前より北行二三丁にして。東側に京都市會議事堂の魏然たるを望み。又其東隣河原町二條南に「トキハホテル」を望むべし。これ明治廿四年露國皇太子ニコラス殿下。大津に負傷したりし時。我天皇陛下の同皇子を訪ひ玉ひし所なり。

行願寺と云西國。革堂十九番の札所也。及御靈社は。寺町通丸太町竹屋町の間にあり。

皇居　昔の所謂土御門内裏にして。足利時代の初の方より。專茲に都し玉へる如し。應仁の亂後荒廢に傾きしを。織豐二氏漸く之を興し。德川氏之につきて頗る其規模を擴め。外廓は南丸太町北今出川東寺町西烏丸を限り。南に堺町御門を開き。北に今出川御門を開き。東に寺町清和院石藥師の三門を開き。西に下立賣蛤中立賣乾の四門を開く。中央に禁裏御所あり。其東南に大宮御所皇太后宮の宮仙洞御所上皇御所あり。四面に親王攝家の宮邸あり。殿宇奥然として簇立せしが。維新後。親王攝家の宮邸を毀ち。其跡には柳櫻梅花の名樹を栽へ。以て御苑とをす。故に今其觀色は昔日に異るも。光風は却て清麗の趣を添へて。自ら行人の足を止めしむ。試に廓内を案内せんに。先寺町通より丸太町に折れて御苑に入れは。第一に京都美術工藝學校あり。其西隣は則年々春期開く處の京都博覽會場にして。本年は有名なる時代品展覽會茲にあり。之より北に入れは。京都測候所あり。西に主殿寮出張所及賀陽宮殿下御邸あり。仙洞御所大宮御所は博覽會場の北隣にして。殿廊壯麗其庭園は秀吉の時經營せしものに係り。桂離宮修學院離宮の林泉と共に京都の三大住苑と稱せらる。其中に紀貫之が舊跡あり。近年渡忠秋碑を建て之れをしるす。禁裏御所は。安政二年の建築にして。南正面に建禮門俗稱南門あり。東に日の御門あり西に公卿門臺御門あり。紫宸殿は南門の正面にあり。小御所は其東に。清涼殿は其西にあり。常御門は小御所の

北にあり。公卿殿上人以下の詰所は紫宸清涼兩殿の北にあり。女御女房の殿舍は又其北にあり。徳川氏資を惜みて其建築善美を尽さずと雖。結搆畧舊式を用ゐて。裝飾亦優美あり。縣井は御所の西方一條烏丸東に存し。鍵玉明神和氣清麿の社は同じく烏丸下長者町にあり。又梨本神三條實萬公の社は御所の東清和門の所にあり。今上天皇御降誕の舊跡は。禁裏御所の東北角にあり。廻らすに鉄欄を以てす。

●同志社大學　皇居の北方。今出川通に數棟の洋館魏乎として雲表に秀つるもの。是明治八年新島襄氏創立する所の基督主義の學校なり。大學あり之を政法理科。普通學校神學等に分つ。

塙裏の一大觀あり。幼稚舍あり。女學校あり。生徒六七百人。内外の教師分て之を教ゆ。亦我京都教育

足利氏室町御所の舊跡は。此西方にありて今尚室町今出川北を惣門の町。其北を築山町。其北室町東を裏築地町等と呼ぶ。

●相國寺　同志社の北隣。一叢の深林中に二万六千余坪の境内を開きて。鐘樓方丈法堂等宏壯の建築其間に立ち。塔頭林光院には藤原肅(惺窩)の墓あり。當寺は普明國師の開基

に出て。足利義滿の建立に係り。五山の第一に位して。足利時代にありては當寺の住職を僧錄司に任じ。以て五山を管し。且政治上の顧問たらしめたり。故に今僧錄司關係の記錄茲に存するのみあらず。陸信忠筆の十六羅漢。兆殿司筆白衣觀音。雪丹筆の十牛の圖等。稀世の名畫甚多く。殊に若冲筆の花鳥三十帖ハ。天下の奇品たりしが。今は之を御府に納めて當寺に之なし。此北に上御靈社あり。應仁亂の古戰場あり。

●二條城　堀川西壬生東椹木町南押小路北にあり。皇居より西凡十丁許あり。慶長七年徳川家康の城く處にして。近年離宮となる。溝渠四面を圍みて一帶の土堤城櫓を覆ひ。門内に入れば殿屋皆宏壯にして。柱壁隔室の結搆見るとして盛ならざるなく。金障玉屏の畫圖亦皆非常に大にして。凡美術家の如き。苟も大作の工を學ばんとせハ。必一ひとれを拜觀せざるべからず。

●神泉苑　二條城の南隣にあり。大内裏時代は。北は二條南は三條東は壬生西は大宮の間に亘り。林泉は巨勢金岡之を築き。中に乾臨閣ありて天子遊覽の所たりしが。後世漸次に荒廢して。今只其一部を存するのみ。元和中一寺を建つ。元信筆鬼の屏風等を藏し一見

すべき處あり。

●大内裏遺跡　北は一條南は二條東は今の大宮通西は北野神社西御前通の少し西邊にして。昔の廣袤は三百八十四丈と四百六十丈あり。皇居の北門偉鑒門の傍にある土塀は。今尚六軒町東一條通の南側に存在し。而して大極殿の古蹟は。二條城北隣京都監獄署と其西隣新屋敷徳川時代町奉行の與力同心の居りし町とにありて。記名又は碧色の瓦片往々あり又今の監獄署の所司代屋敷あり　士中より出つ。

●官衙學校　京都府廳は下立賣新町西にあり。尋常中學は其北隣にあり。盲唖學校は府廳の前即南にあり。裁判所は丸太町通富小路西にあり。尋常師範學校は仙洞御所の東隣寺町にあり。高等女學校は師範學校の東二丁土手町丸太町南にあり。

●聚樂邸跡　天正十三年春。秀吉大内裏の地につきて私第を營み。大に土木の盛を極め。十五年成りて之に移り。翌年正親町帝の行幸を請ふ。其跡は聚樂の古圖によれば。東は大宮西は淨福寺北は一條南は下長者町の間にして。他書は之と異なれども。方三町あり。今尚如水町福島町等存す　須ふく古圖に從ふ

●壬生の地藏　綾小路南坊城西にて。三條大橋より西十余丁にあり。正暦三年三井寺快覺僧都の草創せしものにて。本尊は定朝が千日の歳月もて刻彫したる希代の名作にて。有名なる壬生狂言は春季此寺にて行ふものなり。

東山北部

●銀閣　愛宕郡淨土寺村にあり。三條大橋より北二十余丁。下加茂より十丁。眞如堂より七八丁に過ぎず。應仁の亂後。足利義政慈照寺の地につきて別莊を起し。名つけて東求堂と云ひ。諸侯に課して林泉を營み。苑内に二層閣を建て。茶人珠光。畫家相阿彌等を茲に招き。日に風流を事とす。東求堂内の四疊半は。珠光等の創意にして。我國茶室四疊半の濫觴なり。林泉は相阿彌等の工夫に成り。如意嶽の裾野なる月待山を前に望み。天然の山水を利用して巧に樹石を配合し。銀砂灘向月臺等。尤人の意表に出つ。義政の咏に云く。「我庵は月待山の麓にて傾く空の影をしぞ思ふ」と。銀閣は高僅に五間。上を潮音洞。下を心空殿と云。北山金閣に倣ふて銀箔をぬぶんとせしも。正德二年義政沒して果さざり

しと云。藏品には義政法体の像及七賢の盃。蒔繪の膳椀義政の家集等見るべきもの頗多し。

●詩僊堂　銀閣の北十余丁。一乘寺村にあり。先哲叢談丈山傳に。元和元年大坂之役。獨窮。出レ營先登。斬レ首二級。然以二其犯レ令見レ黜。以二母老家貧一故。寄二食淺野侯一。居十歲。母以レ病卒。服闋乃辭去。棲二遲叡山麓一乘寺村一と。あれは。寛永年中此地に退きしおふん。今尼寺にして。丈山在時の狀整然として存す。屋は三楷にして。尤眺望に富み。所謂詩僊の室は下層にあり。梶間に漢晉唐宋の詩伯卅六人の像探幽の筆及詩丈山の筆を題せるを掲く。境内蕭洒遊人爲に愛幕して去るに忍ひざる感あり。

●修學院離宮　承應中。後水尾帝開き玉ふ處にして。詩仙堂の北七八丁。修學院村御茶屋山の麓にあり。宮地は上中下三所に分れ。俗に御茶屋と稱す。上御茶屋は山により天然の山水を利用して之を搆へ。池を浴竜と云ひ。鄰雲亭止々齋翠遂軒等の屋其間にあ。奇岩怪石翠松楓樹。相因て風致を呈す。中御茶屋は元樂只軒と稱す。土地高燥尤眺望に富み。且林丘寺を背にしたれは。朝には梵聲を清磵の嵐に傳へて聽くへく。夕には鐘聲を玉泉の音に浸して觀すべし。下の御茶屋は林泉楷小なれとも。春花秋葉の景に勝れて。晴月觀藏六港等奇巧比なく。而して三苑各相距ること二丁に滿たす。道路には白砂を布き。青松を栽へ。纖塵の之に留り。鳥獸牧兒の之を素すを許さゝれい。清楚たる其趣。全く一種の仙境にして。亦人界の俗氣なし。想ひ起す。後水尾帝圖皇運の中興に膺りなが〻徳川氏に辱めふれて。空しく位を避け玉ひ。人世の墓なきを觀して。快々茲に自適の樂をなせしを。而して又。其中宮東福門院と云秀忠の女なりの崩するや。徳川氏帝を制して。再茲に遊ふことを禁し奉りし事を。嗚呼此地に遊ひて其絶勝を觀。醒て當年を顧みれは。誰か感慨の情に堪へんや。又林丘寺い。延寶八年中御茶屋を後水尾皇女光子内親王に賜ふて佛寺とせしものにて。近年同寺其一部を宮内省に獻し。再中御茶屋を興せる也。故に寺内亦見るへきもの多し。

●上加茂　修學院の西一里下加茂の北半里にあり。此地は山城風土記を案するに。神魂神の孫賀茂建津身命の住地にして。此神は神武帝東征の時は。八咫烏となりて其嚮導をなし。任終りて大和より茲に移り住し。丹波の伊賀古夜姫を娶りて玉依姫を生み。玉依姫今高野郡賀茂尾に鎮座する處の大山祇神に合ひ。可茂別雷命を生む。其子孫繁昌して。當社

には別雷命を祀る。下鴨社には玉依媛及大山昨を祀るものなり。社傳によれば。神武帝の時鎮座せしものと云。神殿以下諸宮殿皆甚莊嚴にして。境内殊に花樹に富み。清流四方に疏通して。肅然たる靈地なり。五月五日の競馬は今尚毎年之を行ふ。

●下鴨社　三條大橋より十余丁。下加茂村の半島にあり。三面鴨河に瀕して。一叢の深林。蓊鬱たる間に。丹彩奐乎たる幾多の宮殿攢立し。御手洗川は境内を貫流し。地清く氣朗にして。夏日の納涼實に都下第一たり。此地は即昔の糾森にして。南北朝以後屢々古戰場となりし處なり。毎年五月十五日の葵祭は今尚古式を存して史學の參考となること勘かゝす。

東山中部

●高等學校　吉田村にあり。明治二十四年大坂にある處の第三高等中學を茲に引きしが。同二十七年學制の變更によりて大學となり。工科法科等を教授する此至る。數棟の洋館神樂岡の麓に聳へ。規模宏壯一見帝國高等の教育場たるを知る。

●百萬遍　大學の北隣にあり。淨土宗鎮西派の本山にして。應仁亂後市中より茲に遷せり。法然上人開基にして。慈覺大師作の釋迦如來を本尊とす。寺號實は智恩寺といひしか。元弘中大疫の時。彌陀の號百万を唱へ。其災を消せしより百万遍と云ふに至る。所藏の寺傳顏輝筆の蝦蟆鉄拐二巾。及十体彌陀像一巾は天下の奇品なり。

●神樂岡　一名吉田山と云。大學の東方にあり。應仁亂後古戰場にして。山頂に藤氏の氏神吉田神社あり。即足利氏以降。皇居の八神殿を合祀せし處にして。日本國中の神社神官の授爵を掌りし吉田家は。此神社の主管たりしなり

西麓に後二條帝東麓に後一條陽成二帝陵あり。

●聖護院　吉田山の南麓二三丁にありて。智証大師を開山とし。世々三井寺の長吏に任し。增譽大僧正以來。又熊野三山檢校となり。奮修驗宗本山派の大本山たり。後白河帝皇子靜惠法親王茲に住せしより。門跡大抵皇族にして。維新の時に及へり。

●眞如堂　吉田山の東一丁にあり。眞正極樂寺と云。一條帝母三條院の宮趾にして。正暦三年。戒算上人勅を以て。慈覺大師作の彌陀を安せし處なり。今天台に淨土を兼ぬ。

藏品に張思恭筆普賢の像弘法筆不動像等あり。

●新黑谷戒光寺　眞如堂の南隣にして法然上人。元黑谷叡山の西麓から移住せし白川禪房是あり。鎭西派本山の一にして。本堂に法然親鸞各自作の像を安し。本堂の前には熊谷鎧かけの松あり。其南下段に熊谷堂あり。直實敦盛の像あり堂前に直實敦盛の塔。及山上に山崎闇齋の墓等あり。畫幅多く。寺傳惠心作の屏風繪山越彌陀三尊金色の像は海內の絕品あり。

●永觀堂　黑谷の東方三四丁にあり。眞紹僧都の建立あり。今淨土宗西山派の一本山にして。本尊の彌陀は。弘法大師の作に係り。永觀僧都の故事によりて。世に見かへりの尊像と呼ふものあり。所藏。赤衣の釋迦。及ひ十大弟子の像三幅は。唐の子夏筆にて。東福寺吳道子筆の釋迦三尊に次げる名品あり。惠心筆山越彌陀像一幅。亦天下有數のものあり。

●如意嶽　銀閣永觀堂等の上に。峻拔せる一峯にして。如意寺の跡俊寛の談合谷等山中にあり。而して有名なる大文字は此頂上にありて。毎年七月十六日夜薪を燃す。實に壯觀あり。大の字は横の一畫四十間左傳へて弘法大師の作と云ひ。又横川和尙足利義尙追悼の爲作る處と云。

●南禪寺　永觀堂の南西にあり。五山の上たり。正應四年。龜山上皇其離宮を。大明國師に賜ふて寺とせし處にして。今の殿舍は慶長中清涼殿を引きしものに係り。尤壯麗あり。山門。亦宏大を極め傳へて石川五右衞門のかくれし處と云。佛殿は明治廿八年一月燒亡したるも。寶物は依然たり。殊に寺傳李竜眠聖相文殊。足利義持筆十六羅漢。徽宗帝山水二幅等著名あり。塔頭金地院は。德川時代僧錄司の寺にて。殿宇清麗書畫古文書に富み。天授菴に梁川星巖夫妻の墓。西福寺に上田秋成墓あり。因に記す。香川景樹墓は。紀念殿の西南三丁。東寺町聞名寺にあり。

●疏水　京都府知事北垣國道。琵琶湖面と京都との地平高低。百四十尺の差あるを知り。府民に謀りて二百余萬圓を費し。明治十八年以降三四年間に成す處にして。一は運輸を便にし。一は工業を興すにあり。故に沿岸皆水を以て米搗器械を動かし。電氣を以て燈草を刻み。其インクラインより大津三里の間は。舟を通して往來運漕を便にせり。

●大津行運河　三噸の小舟泛々として。一時間余に大津に出づべし。先日岡山の下に

長八丁の隧道あり。次に逢坂山の下に長廿七丁の長隧道あり。舟中冬は。寒けれども夏は涼し。

インクライシ　インクライシは英語にて傾斜と云ふことなり。東岩蔵の半腹より直下に水を落すときは舟以て行るべきにあらず。故に水をば鉄管を用ゐて下し。上に鉄道を斜に布き。電氣の力を仮りて舟を其上に往來せしむ實に一大奇觀なり。技師田邊朔郎功を以て工學博士となる。

平安宮紀念殿　桓武帝の我平安に都し玉ふや。其大極殿の完成して。新正を茲に賀せしことは。實に延暦十五年にあり。長岡より遷都せしは十三年也　此歳より起算すれば。即明治廿八年は。方に一千一百年に當るをもて。府民皇恩を報せんが爲。茲に地を岡崎に卜して。平安宮を建て。以て桓武帝を祀り。其前方に紀念殿を建て。之を古の大極殿及青竜白虎の兩樓應天門等に擬して。丹柱白壁瓦金鶏尾を用ゐ以て雄麗無比の大建築を起せり。地は第四博覧會場の北隣に當りて。南西に疏水運河を控へ。東に如意嶽を望み。北に神樂岡を負ひ。尤形勝を極む。蓋將來東山の名所中に於て。屈指の繁花を見るに至るや知るべきなり。

六勝寺舊跡　白河帝藤原氏衰世の別莊につきて。離宮を置き。尋て法勝寺を創め。九重八角高八十四丈の高塔を建つ。既にして數代の間に。尊勝。最勝。圓勝。成勝。延勝の五寺を建て。應仁の乱前までは。微妙勝法の靈場たり。其後荒廢して田野となりしか。機運變轉今や博覧會紀念殿等蒐然此上に建つに至れり。

青蓮院　三條通の南粟田口にあり。俗に粟田宮と云。行玄大僧正の開基にして。傳教大師を開山とせり。鳥羽帝皇子覺快法親王之をつきしより。皇族及攝家出身の僧之に住し梶井宮妙法院等と共に。交々天台座主に任す。殿舍明治廿六年九月炎上せしが。同廿八年四月再建おれり屏障は悉く古名手の筆にかゝり必一覧すべきものあり。有名なる御家流の祖尊圓法親王は。當寺の院主にして。其後名筆世々之れをつくを以て。今所藏の手鑑は海内第一の絶品に係り尋市亦頗多し。

知恩院　青蓮院の北隣花頂山の半腹にあり。天台座主元三大師の草創にて吉水禪房又大谷寺と云ひしが。法然上人配所讃岐より還るや。慈鎮和尚當寺を之に授け。上人遂に茲に沒す。爾來淨土宗の總本山となり。以て今日に及ぶ。近世德川氏後陽成帝皇子良純親王

建立して。當寺座主とおし。世々皇子をして之を嗣かしむ。之を花頂宮と云ふかくすることは江戸寛水寺の輪王寺宮と共に德川氏の深き謀に出づるものなり　今の堂宇は。寛永中の建築にて。宏壯無比。其方丈は金障皆狩野一門の筆に成り。信正の拔け雀及杉戸の松脂の畫。左甚五郎の作に係れる鶴張琴は天下著名のものあり。又堂前の大鐘は。經九尺五寸高一丈八寸厚九寸五分重二万貫ありて。世界三大鐘露國モスコー府とアルマ國オングーンとに二つあり。當寺は尤畫巾に富み。殊に敕修圓光大師法然上人行狀繪傳四十八卷は。天下の一品にして。畫は土佐吉光及其門下の筆に成り。傳は後伏見後二條二帝以下親王公卿の筆に出づ。珍海己講の五髻文殊。玄宗帝筆の屏風。俊乘坊傳來五祖の像等亦有名あり。

●圓山公園

智恩院の南に當りて。高燥快濶の地を圓山と云。溫泉場あり。ホテルあり。遊戲場あり。文明の樂事一として備はらざるなく。春夜は櫻花の爛熳たるに盡すべく。秋日は紅葉の赫耀たるに醉ふべし。內外の客はホテルに充滿し。都下の士女は他丙に群集す。四時の繁昌人をして流石に花の都哉と思はしむ。

●頼山陽墓は溫泉場の南隣。長樂寺の山上二丁にあり。將軍塚は又其上二三丁にあり。

●祇園社　丸山の西麓。八坂にあり。素盞嗚尊を祀る。もと延齡寺の末寺にして。感神院と云。平家物語に所謂祇園精舍の鐘云々とはこれなり。社殿美麗にして。有名なる七月十七日より廿四日までの祇園會は此社祭なり。

●祇園町

祇園社の西四條橋の東にして。千戸の妓樓軒を並べ。祇園館南座北座等上等の劇場亦此地にあり。大石良雄の遊ひしと云ふ一力樓は。町の中央南側に赤壁奐如とし て。一際他に異りて見へ。有名なる歌舞練場にては。祇園町の藝妓都踊の盛飾して踊る技を演じ。幾多の美人細腰を鼓し。妖態嬌々飛燕を欺き。情歌綿々人の心地を極ひ。見るものをして。恍然たらしむ。

祇園町の南に建仁寺あり。五山の一にして。僧榮西の開基に係り安國寺惠瓊及三輪執齋の墓あり。又寶物多し。

●圓山以南の名所

圓山より南に行けは。光東本願寺御廟東大谷と云あり。御廟の西隣に双林寺あり。西行康顯頼阿の舊跡あり。此南麓は即高臺寺にして秀吉の夫人北政所尼湖月の建立に係り。秀吉及夫人の木像ありて殿舍美麗林泉滿酒且境內は萩の名所あり。此南麓

山に木戸孝允墓及維新時代の志士の墳墓多し。之は貞三年坂を越えれば則清水寺となる。

當寺は坂上田村麿の建立にして。半丈六十一面千手觀音を本尊とし西國十六番の札所なり。其舞臺は尤眺望に富み。京洛一目の中に搭つ。境内に勸王家明照墓あり。此南を鳥邊野とす。古來の墓地なり。其西隣は即西大谷御廟所なり。又清水寺の西に六波羅密寺あり空也上人の開基にて。本尊十一面觀音は其自作に係り。西國十七番の札所なり。平清盛六波羅の館は。此南隣にあり。故に清盛當寺を再興し。今其木像あり。又遊君あこやの墓もあり。而して當寺亦寶物に富む。八坂塔寺　法觀　此近傍にあり。小野篁の建立にて今の建物は永享十二年の再興なり。高十六丈廣方三間半あり。

東山南部

●大佛殿方廣寺　鴨河の東五條通の南にあり。天正十四年秀吉廿一ヶ國の諸侯に課して造りしものにして。其石垣亦諸侯の獻する所なり。文祿の大震に。大佛破れ。慶長中秀頼改めて銅像とす。寛文二年復地震にて破る。德川幕府之を江戸龍井戸に引きて錢に鑄

文錢と云。更に今の木像を刻す。座像にして高六丈三尺あり。釣鐘は厚九寸高三丈四尺經九尺

●東福寺の僧清韓が作れる。國家安康云々の銘は今消磨す。

堂前に耳塚あり。秀吉公譜によれば。征韓の役我將士彼國人の耳を斬り首に代へて之を獻せしを。秀吉乃ち茲に埋めしめたるものと云。

●豐國神社　大佛の南隣にあり。慶長四年六月建つる處にして。秀吉を祀る。寛政中回祿にかゝりて。爾來荒廢に委せしが。明治十年朝廷別格官幣社として再興す。

●京都帝國博物館　豐國神社の南隣にある數棟の洋館にして。明治廿八年春の竣功に係る。社寺の寶物を預りて多く之を保存し。且諸人に縱覽を許す。

●三十三間堂　博物館の南隣にあり本名蓮華王院と云。帝王編年記に。長寛二年十二月十七日上皇後白河のと御願。蓮華王院供養。三十三間御堂。とあり。拾芥抄に。後白河院御願。千手一体ヲ新千体云々。在ニ鴨河東七條南。とあるもの即これにして。增境に。建長元年三月廿三日。火いてゝ蓮華王院の御搭に燃つきければ。三十三間の御堂の千体の千手一時にはのほにたゞ焼ぬ。云々。文永三年卯月に蓮華王院供養。行幸云々と

あれは。當時の再建なるを知るべし。今長六十四間一尺。之を三十五間に分ち。千二体の觀音を安す。得長壽院のこと當寺と相混し古來人皆之を誤れりされども考長くして茲に辨するを得す。名作甚多し

此前方東。見眞大師をばくひの係の傍に。後白河帝陵あり。凡ての三十三間堂及博物館等の地は。皆後白河帝の法住寺殿の跡にして。畢竟三十三間堂も。其殿内の一佛寺たりしなり

●智積院　三十三間堂の前即東にあり。始眞言宗新義派の本山根來寺。秀吉に反して鏟滅せらる。家康仍て當寺を建て。以て同派の本山とす。寶物に長暦十四の筆瀧見觀音等見るべきもの多し。

●妙法院　博物館の東隣にあり。傳教大師を開基と定む。後白河法皇茲に住し。後法住寺に移る時。當院を以て昌雲大僧正に讓る。高倉帝皇子尊性法親王以後。皇族多く之に住す。叡山三門跡の一なり。後白河帝宸筆不動圖。西行歌内裏歌合。古浮世繪六枚折屏風。其他豐公の遺品等數百点あり。

●阿彌陀峯　妙法院の南。新日吉神社の境内より。東に登ること八丈町にして山上に達す。秀吉の墓所にあり。數株の巨松蕭然として聳ち。只一杯の土冢を覆ふ近年四方に

木柵を結ひ。稍修理を加ふと雖。猶英魂は寒烟荒草に咽ぶに似たり。

●泉涌寺　三十三間堂の南。五六丁。紀伊郡今熊野村にあり。弘法大師の開基にて。藤原緒嗣之を再興し。後正法國師禪律淨土眞言四宗の兼學とす。四條帝を山上に葬りしより。數代の御陵を寺内に置きしか。後水尾帝以後皇室山陵の古制を襲くを得す。當寺に鏟りて石造の御陵を作るに至る。故に今孝明帝まで十四代の御墓。寺背の陵地にあり。(孝明天皇御陵は宏大なり)。宣長の歌に云く「神にます君か御墓をきて見れは今は佛にあるそ悲しき」と。藏品に古硯筆の涅槃像の大巾あり。横四間竪十八間。先五大洲中にて屈指の大畫巾なりん。此他當寺は書畫多し。西國十五番札所觀音寺當寺の艮にあり。

寺前より南東に進めは。即成就院墓と云あり及九條兼實墓地を經。僅に三丁許にして東福寺に達す。

●東福寺　藤原道家の建立。聖一國師の開基にて。今諸堂炎上の後に係れとも。通天橋い依然として。洗玉硯の上にかゝり。楓樹水を夾て相競立し。秋日の景色は天下無双にして。藏品には有名なる吳道子筆の釋迦三尊三巾。兆殿司筆の五百羅漢五十巾。同師筆涅

聚像の大幅たて三丈九尺巾二丈六尺等を有し。世界に向て誇るべき値あり兆殿司は兆は名殿司は東福寺の役名なり

●稲荷社　東福寺の東南數丁にあり。京伏見の間にして。スチーションあり。官幣大社にして。倉稲魂を祀る。即日本國中に於ける稲荷明神の根本なり。信者甚多く。宮殿未社皆丹彩を施め。美觀精麗他に比なし。而して山上の赤鳥居は。祈願者の献する處にして。其數の夥しき一見して驚くべし。境内に荷田東麿の社あり。又社東に其墓あり。これ東麿は當社の祠官たりし故なり。

北山

●八瀬大原　現今京都に遊ふもの。屢に廣前垂を繞ひ。脚に跡半を穿ちて。頭には新しき豆絞かの手拭を被り。數人相伴ふて新巻物品を髻上に戴く婦女を見は。必其八瀬大原女たることを知ふん。然れとも。此地か京都の内にありて尤歴史美術の要地たることを解するものは甚鮮し。嘆すべき哉。さて大原は三條大橋の北比叡山の西麓に當り八瀬は其入口あり。大原へ行とはなしに想すれはやせとはかぬる物にをありける」と。古人新撰古今集清輔の

咏も云はれたる如くあり。八瀬の入口高野川の北岸。高野村には小野毛人墓あり。慶長十八年石棺及鉄牌を堀出す。八瀬の中央に。敞山黒谷青龍寺及西塔横川等に登る道あり。既に大原の内上菰に入れは東方に。小野山あり。古來山水紅葉を以て著はれ。藤原敏行紀貫之等別莊を置きしことあり。山下道路より東に入ること數丁に惟喬親王舊跡あり其地を一本。親王は仁明帝の皇子にて。藤原氏の爲に世を狹めふれ。水無瀬の宮を退きし後。茲に隱棲せしものにて。供勢物語に在原業平雪中君を訪ひまひふせ。「忘れては夢かとそ思ふ思ひきや雪ふみ分て君を見んとは」と咏せしとある古跡あり。之より北行僅に七八丁にして魚山に至る。即所謂大原の中心にて。三千院門跡其他名刹集合の處なり。地勢高燥敞山の西麓に位し。南に呂川あり北に律川あり。櫻楓岸に臨みて山水の明を助け。清麗多趣世に比類なき淨境なり。門跡は一名を圓融院と云ふ。中世以降梶井宮又梨本宮と呼べり。貞觀中。承雲和尚傳教大師草庵の地を慕ひ。始めて當院を茲に趙す。數代を經て堀川帝皇子最雲法親王之を嗣きしより。金枝玉葉多く之に住し。天台三門跡の一に居れり。殿舍宏麗にして。林泉亦尤巧致を究め。寺傳惠心筆の彌陀二十五菩薩。世尊寺行尹贊の廿五菩薩を始として。畫巾甚見るべきも

の多し。叡山全圖の屏風は。法橋了琢の筆にて。同山元龜以前の狀を觀るべく。鈴虫の鈴は工藝上の參考となること甚し。往生極樂院は門跡の東隣にあり。永觀三年敕命を以て。惠心僧都の建立せしものにて。其屋風常行念佛堂の本式にして。四方には天井なく。樓を延はして之に代ふ。中央には天井あり。舟形にして之に着色の二十五菩薩を畫き。板壁には着色の兩界曼陀羅あり。戒壇ハ螺鈿を以て飾り之に本尊金色丈六の彌陀及左右には觀音を安す。以上皆惠心僧都か一筆三禮。若くは一刀三禮の功を積みて成せるものにして。其精麗は素より論なく。凡藤原時代の美術史上に。一大時期を造れる惠心の眞筆眞刀を知ふんには。必之を拜せさる可からす。」來迎院又其東にあり。一名大原寺と云。承德中良忍上人の草創せし處にして。實に天台宗聲明音律業一名融通念佛宗の大本山なり。行基の作に係る著名の藥師釋迦彌陀の三尊を安し。光明皇后筆金剛般若經壬佐行長筆融通緣起二卷を始として。美術品頗多し。殊に塔頭蓮成院所藏の如意輪觀音像は。古畫にして甚賞すべきものなり。」音無瀧は此東二三丁にあり。高六七間。素練一條蒼巖を摩して瀉ぐ。下流は即呂川に入り。密林四邊を蔽ふて清幽の趣名狀すべからす。

後鳥羽順德二帝の陵は。三千院實光坊の北東にあり。後鳥羽帝は延應元年隱岐に崩し北面に葬ること順德帝は寛元元年佐渡に崩し扈從の士。の士能茂法師御骨を負ひ大原龍禪院康光法師御骨を負ひ茲に葬ること百練抄に見ふ。一堆の丘上僅に其御標を表するのみ。後鳥羽帝の御標は十三重の石塔にて。勝林院は此北にあり。長和二年の創立にて。有名なる他は只小自然石一基を伏するのみ。法然上人台宗の徒と宗論せし時此像上人を助けたりと云又門る証據の彌陀のある處なり。跡の門前に熊谷ナヲ捨の藪ありて眞實か其師護衛の爲ナヲを以て控へ。以上を稱して魚山と云。宿屋あり。土產物あり。遠近の人必一ひ參詣すべしと處と云。

魚山より西八九丁にして。寂光院あり。小擔山の麓にして。聖德太子の草創に係り。平氏滅亡の後。建禮門院清盛の女安德帝の母隱棲の名跡あり。今後白河安德二帝の影。及門院の木像并に有名なる阿波の內侍紙製の像あり。

●大德寺　愛宕郡紫竹大門村にあり。三條大橋より北凡一里余。皇居より西半里余。金閣に行く途中なり。大燈國師の開基にして。花園後醍醐兩帝尤之を尊ひ。遂に堂々たる一大伽藍となり。南禪寺と相並ひて五山の上たり。境內略七万坪。規模の盛なる事禪宗の諸寺に秀つ。山門は重閣にして。連歌師宗長の建立に係り。其上閣は即ち千利休の建立し女郎母等像を置きし所なり。今同人の像あるは近年備前上ケ奉納せしもの也。長谷川等伯筆にて。天井は龍の畫あり。又安置する處の十六羅漢木像は皆傑作にて清正征韓分捕の者と云。佛殿は初赤松則村

父子の建立にて。又今の方丈の庭は小堀遠州の作に係れり。塔頭聚光菴には平利休墓あり。天正十年十月十日秀吉其主信長父子の冥福を祈り建立せし禪院跡は其西にあり。同年六年秀吉其母の爲建てし天瑞院址亦其西にあり。興珠菴は春名なる一休和尚の住せし處にて。豐臣秀長墓ゝ大光院に。里村紹巴墓は正受院に。紫式部碑は碧玉菴跡にあり。著名の畫幅甚多々殊に寺傳禪月大師筆の五百羅漢百幅内六巾長谷川等伯の補畫あり。洋人皆て十万弗を抛たんとせし名品にて。筆力雄健湊合均一字内の大觀なり。次に牧溪有歌の龍虎双幅。亦天下の一品にして。此他牧溪の畫に係る中觀音左右猿鶴の三幅對。後醍醐帝宸翰の贊ある大燈國師像。寺傳狩野祐勢の釋迦三尊。寺傳兆殿司の十六羅漢十六巾。寺傳金岡の觀音は皆名品なり。而して金岡のもの特に傑出す。當寺の南三丁に舟岡山あり。建勳神社織田信長今宮神社及梶井宮の址茲にあり。

●金閣　大德寺の西十丁北野平野の北五六丁。葛野郡大北山村にあり。もと一條公經の別莊にて北山殿と云ひ。元仁元年捨て以精舍とおし。西園寺と號せしか。明德四年足利義滿取りて別莊とおし。三層の樓閣を興して。内外塗るに金箔を以てし。よりて金苑園と云盛にして中に麋鹿を飼ひ苑寺と云。應永十五年三月八日天子の行幸を茲に仰く。今や境内

頗縮少するも。尚三万余坪を有し。庭園廣くして金閣其中にあり。高凡六間。上層廣方三間許下層を法水院と云。運慶作の彌陀及義滿法体の木像あり。中層を潮音洞と云。天井の天人の畫は狩野正信筆にて。惠心作の彌陀及弘法作の四天王を安す。上層を究頂閣と云。板敷は方三間の廣ある。楠の一枚板あり。後小松帝宸額を掲く。屋上の露盤には鳳凰を置き。すべて内外の金箔今尚處々に存す。西には衣笠山を望むべく。下には境内の勝を一目の内に觀るべし。閣前の鏡月池には夜泊石。丸山八海石。赤松石。島山石當時の諸侯の献せしもの尚多し等あり。閣後の瀑布を竜門と云ひ。茶室を夕佳亭と云。家臣を留むる室之に副ひ一。種異樣あり注意して觀よ方丈の小庭には陸舟松あり。其殿舎は亦紹すへく。本尊に定朝作寺傳の觀音を安じ。床に後水尾帝の宸翰を掲け。其他各室珍奇の圖畫古器物を安し。巡覽殊に愉快を覺ゆ。

此南數丁に等持院あり。即足利十三代の木像及尊氏墓地のある處あり。

●平野神社　北野社の北隣にある官幣大社にして。桓武帝外戚高野氏の祖なる今木の神を祀れり。古來平野の夜櫻と稱するは。即此境内花宵の賑ひをいふなり。

●北野神社　天暦元年菅公を祀る處にして。是より前天慶五年七條邊熊に出現し玉ひしを茲に至り遷移神祀ありしなり。三

係大橋上流凡一里余あり。東に五七軒の遊廓を負ひ。西に紙屋川書王朝の時此河岸に紙屋院ありて博士の繪書に用ふる紙を漉きしの流を控へ。柳堤境内を埋めて朱門彩殿其間を綴り。参詣遊覧の客四時絶へず。すけり

洛北の一名區にして。坂所藏藤原信實筆の菅公畫像起八卷は。米人フェノロサの如き稱もて宇内第一と呼べり。

●鞍馬寺　三條大橋の北三里半。愛宕郡鞍馬山中にあり。延暦十六年の開基にて。本堂及牛若の住せし東光坊の趾。及土佐坊昌俊のかくれし僧正谷等今尚存す。

西山

●仁和寺　世に御室と云ひ。大内山と云ふ三條大橋の西凡一里。葛野郡鳴瀧村の北にあり。宇多帝の建立にして。同帝光孝帝の爲。其御終焉の靈場あり。之を當門跡の一世とせしものなり。爾來眞言古義廣澤流の本山として。歴世親王大抵之に住す。故に境内今尚十万余坪を有し。明治廿年火災に遇ひしも。山門五重塔等存在して。藏品に有名なる寺寶金岡筆の稱德太子像。寺傳張思恭筆孔雀明王。寺傳弘法筆五大明王三巾。及木筆墨畫の不動等數百品あり。

光孝圓融桓上後朱雀後冷泉諸帝の陵。寺中若くは近傍にあれば。序に之を拜すべし。

●妙心寺　御室の東南四五町にあり。花園帝其離宮萩原の離を捨て。開山關師大疊國師弟に賜ひし禪刹に係り。洛西の大伽藍なり。正鳳院は花園帝在世の殿殿にして。今尚其式を存す。天授菴は當寺に世授翁和尚の廟所。授翁は扶桑隱逸傳以下皆藤原藤房とせり但予別に考あれども今は略し。大法院は佐久間象山墓のある所なり。書畫多く。中には達磨布袋豐干の三巾對達磨は門無閑筆。他は李龍眼筆及觀音山水牧溪等は尤見るべし。且花園帝以下の宸翰亦之あり。

●双ヶ岡　仁和妙心兩寺の間にあり。吉田兼好の古跡を以て著はる。

●三尾　三條大橋より三里。仁和寺の西北一里桂川の西岸に。栂尾北中央高雄南の三山あり。尋して三尾と云。清瀧川に臨みて各寺院あり。栂尾高山寺は僧文覺の弟子明惠上人の開基にして。寺前に橋あり。白雪と云。其東北深瀬は上人の始めて茶種を蒔きし處なり。槇尾西明寺平等心王院とも云は。空海の高弟智泉法師の開基にて。高雄神護寺は。和氣清麿の河内四建立せし神願寺を引きて。弘法大師に附せしものなり。而して高雄は文覺上人の住せし處にて。今其墓あり。凡三所共に紅葉の名所にして。曉秋烈霜樹葉を染むる頃は。黄金天に渡り緋錦地に敷く。休床は谿を埋め。遊人は殆轉顧するに近き日和なり。高山寺

信貴山縁起草紙六卷。鞍馬寺の牛若天像十軸。及後白河法皇畫像頼朝文覺光能五人の像等なり。尤美術上の參考となるものなり。

●愛岩山　三條大橋より西四里。登程五十町。山中に阿多古神社火の神カグツチ神の母イザナミの尊を祀る白雲寺明輪寺及寒禪寺等あり。

●廣隆寺　三條大橋より一直線に西行二里。太秦村に至れば。則當寺あり。聖德太子の桑川勝に命して建立せしめし處なり。今堂には塑像の藥師如來長四尺五寸のものを安す。其風宛然法隆寺の壁畫に似たり。大講堂には大安寺賢澄作の丈六の彌陀。上宮王院一名太子堂には太子自作の像を安す。桂宮院は太子在世の仮宮楓野の別宮にて。八角の持佛堂は創立以來のまゝに存し。太子の影及三臂如意輪并に隋煬帝の献せし彌陀茲にあり。凡山城國中にて。推古式の建築彫刻を觀んとする者。必茲に詣るべし。

●嵐山　廣隆寺の正西十町許にあり。拈花嶽と云。大井川を隔て北の方天竜寺の境内を控く。奇巖峻嶺氷に逼り。鬱葱たる松柏の間に。櫻樹楓林相を交へて全山を蔽ひ。花の時紅葉の候。雪の朝。月の夕。短艇止の眺望殆名狀すべきにあらず。櫻は龜山帝の吉野より移せしもの也。龜山帝の御詠に云く…「春毎に思ひやられしみよしの山櫻は今日を宿にさそはれ」　渡月橋由河帝の御製に云く…「大井川よるさ浪をたづねさて嵐の山の紅葉をぞ見る」

の上より舟に掉して遡れば。清流鏡の如く人の顏色鮮麗也。右岸には則小倉山。高倉帝の妃にて故事は平家物語に出つ。千鳥淵横笛及瀧口時頼の故事あり。は蒼然として古を忍ばるれ。左岸には則戸灘瀨瀧。嵐山城跡香西元近の築く處なり。及「花の山二町上れは大悲閣迄の芭蕉の句碑。此所より大悲閣に上るべし。並に大悲閣あり。大悲閣の上は所謂保津の急流にて。丹波亀岡に通ず。三百年前角倉了意の工夫により て。漕舟の便を開きし所にして。兩岸の景色宇内の諸名所の及ばざる處と云。今了意の墓大悲閣にあり。林羅山の其傳を記するを見る。

渡月橋の西上山田村に。宮幣大社●松尾社●祭神大山咋神にて大寶元年鎮座あり。又東西梅津村に宮幣中社●梅の宮●木花咲耶姫大山祇瓊々杵尊火の神あり。

●天龍寺　曆應二年。足利尊氏後醍醐帝の爲。もとの龜山殿龜山帝の離宮の趾に建てし處の禪刹にて。夢窓國師を開山とせり。五山の一にして。其塔頭雲居菴の西に龜山帝陵あり。永泰院に細川頼之の墓あり。而して舊慶壽院は後龜山帝御仙洞の趾あり。境内尤眺望に富む。嵐山は元來龜山帝この地にありし時。離宮の觀覽に供せしか故なり。畫巾に寺傳顏輝呉道子等と稱する名品甚多し。

●清涼寺　天竜寺の北三町許にあり。嵯峨帝離宮の一部なりしと。源融河原左大臣の別莊にて

饗館の趾あり。大覺寺恒寂親王。阿彌陀堂之を棲霞遍照寺と云。清涼之を棲霞遍照寺と云。奇然之を開山せり。山門本堂宏壯にして。本尊釋迦佛は毘首羯摩の作に係り。赤旃檀の釋迦と稱へ。天下著名の靈佛なり。其扉の四天王の圖は。元信の筆。又別に安祐の檀林皇后嵯峨帝后帝后如意輪觀音の扉繪は金岡筆なり。當寺の西二丁に補本正行の首塚あり。又當寺の四門より二尊院に行く間に。當寺の中院の趾あり。即定家卿小倉山山莊のありし處なり。

●大覺寺　清涼寺の西に接し。嵯峨帝仙洞嵯峨院の跡なり。淳和大后之を寺とし。皇子恒貞承和の變に坐して。茲に遁れ。乃恒寂と号して。當寺の開祖となる。眞言古義派廣澤流の門跡を以て。古來洛西の大刹たり。寺傳弘法筆五大虛空藏。及光孝宇多恒寂三方の影等大に見るべきもの多し。

●二尊院　清涼寺の西。小倉山の麓にありて。遍昭僧正の開基。法然上人を爲せし寺代の像にて。所藏の繪畫の足曳の影は九條兼實の畫工宅磨に命して。法然上人を爲せし寺代の像にて。所藏の繪畫の十六羅漢十六幅。寺傳張思恭筆の釋迦三尊。俊乘坊重源來五祖の像。冒忠筆寺傳金剛力士王像十幅等皆天下の奇品なり。

●桂離宮　下桂村桂河大井川の下流の西岸に當て。緑林四面を囲みたる幽邃區なり。是宇多帝皇女孚子內親王生れ玉へる舊跡にして。即今の離宮あり七條道の正西に當り。西本願寺より一里余あり。今の殿舍は豐臣秀吉其擁立する處の。桂宮智仁親王の爲建てしものにて。結構閑雅。其庭園は小堀遠州の手に成り。洛中第一の名苑と稱せらる。

山科及醍醐地方

京都の東方一帶の山脈を超ふれは。即ち山科醍醐の諸村にして。京都より行くには。四つの便道あり。一は三條通より山科の大津街道に出づるものにて。此道よりすれは。先天智帝陵を拜し。次に泰山帝の遁れし花山村の元慶寺。遍昭僧正の墓及東西顯寺の別院を拜すへし。二は三十三間堂の東。「スベ石」より大字勸修寺に出つるものにて。三は七條停車場より氣車にて山科停車場に出つるものにて。四は宇治より來るものなり。此內予は遠路客人の爲に。滋車より來るべき路によりて案內せんとす。

七條停車場より山科まで。下等賃金五錢にて十六分間に達す。其間先車上より稻荷の社を拜すへし。次に北面に當り仁明帝の御陵。及深草法華堂後陽成帝以前數代の陵あり。これは所に合葬し奉拜すへし。既に山科停車場に下れは北に行けは山科。南に行けは醍醐なり。

●坂上田村麿墓　停車場の北五六丁。山科村大字勸修寺栗栖野にあり。田村傳記に。弘仁二年五月將軍薨せし時。勅して甲冑兵杖劍鋒弓箭櫜鞬を副へ。城東に向けて立て葬る。若國家非常の事あれば。塚内死も鼓を打つか如しとあるもの是なり。一堆の土冢。數株の老樹。英魂を罩めて蕭然たり。

●大石良雄古跡　田村麿の墓より西四五町にして。岩屋寺に至る。メでは石より來出で次に田村麿墓に至るべし　此地即赤穗の義士大石良雄父子の。山科詫住居の古跡にして。今四十七士の木像。並に父子の遺品あり。寺の南隣山科神社は式社にして。醍醐帝外祖母の父宮道彌益夫妻を祀る處なり。

●勸修寺　岩屋寺の南三四丁。停車場の西三丁にあり。眞言古義派小野流の一本山にして。攝家門跡之を管す。承俊律師の建立にて。延喜五年九月以來の定額寺なり。此地もと宇治郡大領宮道彌益の宅地なりしか。贈太政大臣藤原高藤若き時。獵に出て偶然茲に宿して。其女に通し。一夜にして之を妊ませしめ。乃ち分身して女子を得。胤子と云後宇多帝の女御に進む。醍醐帝は其腹に生れ玉へるものなり。仍て胤子の弟定方當寺を創め。以て帝及宮道氏の爲に供せしなり。醍醐帝陵の當地にあるは。其原因全く茲に存す。今茲には本尊の千手觀音。及繒の曼荼羅太和中宮寺の天壽國曼荼羅と相俟ちて美術上の參考となる等頗る見へきもの多し。勸修寺より東四丁にして。醍醐村大字小野の隨心院に至る。此所に昔曼荼羅寺あり有名なる小野仁海僧正一名雨僧正住せし所なり又小野の小町も茲に住せしと云俗說あり隨心院は其院家にて增俊。院の門より阿闍梨を開祖とし今に至るまで眞言古義派小野流の一本山にて攝家門跡たり。南行一丁又南行一丁にして醍醐帝陵に至る。之より南二丁にして朱雀帝陵に至る又南一丁にして醍醐寺に至る。

●醍醐●　醍醐村大字醍醐にあり。眞言宗古義派小野流大本山。兼舊修驗宗當山派の密本山なり。今を距ること一千年前。貞觀十八年。小野流の開祖兼修驗宗中興の祖理源大師聖寶の建立にして。醍醐朱雀村上三帝の御願所に係り。爾後皇室の御歸依諸氏の信仰他に優り。爲に境内の諸院一時殆二百有余に及ひ。領地二万石に達せしことあり。開山十五代の法孫座主勝覺僧正。三寶院を境内に創めしより。其門下の末流漸次に理性院金剛王院報恩院無量壽院の四院を開き之を醍醐の五門跡と稱し。皇族及攝籙清華出身の高僧之に住す。實に一山五門跡を有するもの。天下の諸々院獨當寺あるのみ。境内は山上山下の二所に分れ。其間登程二十六丁あり。山上には西國十一番の札所。及五大堂藥師堂加意輪堂御影堂等數十の大伽藍魏然として烟霞蒼樹の間に聳べ。各堂安置の佛体は皆千古の奇作に

して。殊に一切經藏は一種の校倉にして。俊乘坊重源供養の宋版一切經を藏す。山下は金堂清龍宮五重塔西大門より。三寶院理性院以下の諸院甍を並へて松影に峙ち。殊に五重塔は九百四十五年前創立のまゝにして。下層には說相曼荼羅及眞言八祖の像を畫く。美術上方に平等院の書扉につぎて賞揚すへきものあり。三寶院ハ慶長中秀吉の建築にして。其結構宏壯を極め。金障燦爛書院には驚眼あり。庭園は聚樂邸より引く處の藤戸石尊あり。秀吉の指圖に成りて。幽雅の趣世に優る。且古來醍醐朱雀二帝の陵。及白河中宮賢子外四陵墓を管し凡賢子以下の陵墓今尙山其伽藍の高山によりて規摸の甚壯大なるは。宛も比叡山延曆寺と彷彿たるものにして。實に京都の大伽藍たり。されは寶物尤多く。巨勢弘高の筆と云ふへき。醍醐帝御影の及弘法太師筆と稱する太元御修法本尊六巾五大尊五巾。巨勢金岡の地藏を始として。畫巾凡千有余軸に及び。金銀蒔畫の佛具什具より。古文書の如きに至りては。倉庫二棟に之を貯へ。宸翰及武將の眞蹟日記雜錄等。史料に供すへきもの殆万を以て數ふべし。實に一見驚嘆するに足る。

●日野の藥師　醍醐寺の南七八丁にして達す。其管轄なり。本名は法界寺と云。日野資業の建立にして。今阿彌陀堂一宇現然として存す。堂は八百余年前の建築にして。四天柱は布を槻して之に漆し。上に佛像を畫き。其上方內外の土壁亦佛像及天人を畫く。法華寺の壁畫と共に天下著名のものあり。本尊丈六の彌陀は定朝の眞作にて。定朝の作たること他山の同作と。前に元の藥師堂本尊傳敎大師眞作藥師佛之は胎內及運慶眞作の十二神將木像を安す。皆稀世の名品なり。此地は即往時日野氏の領地にして。親鸞上人誕生の古跡に係り。今本願寺の別院境內にあり。上人の叔父日野範綱の作に成れる。上人五才の眞影を安す。此他境內の北五丁に平重衡の墓あり。本堂の東二丁に日野眞夏有範等の墓あり。其東七八丁の山上笠取村に越ふる道傍あり。即方丈記に云ふ外山ありに鴨長明の方丈石あり。眺望絕佳淀川巨椋池眼下に落ち。豐後橋長蛇の如く。大坂奈良二道往來の氣車は百足の行るか如く。一見人をして快哉を呻はしむ。方丈記にある外山は此地にあふす。と云ものあれとも予は未信せす

南

●鳥羽竹田　四つ塚より。鳥羽街道。造道と云を南に進めは。數丁にして路側に懸塚寺あり。即源渡の妻袈裟御前の墓所にて。文覺上人の建つる處なり。此西南に吉祥院あり。淀川を渡りて進めは道左右に分る。右方に進めハ淀に行くべく。左に進めは伏見に出つべし

。其左に折るゝ處に秋の山あり。安樂壽院記によれは鳥羽離宮の仮山にして。著聞集にも見ふる處あり。之より數丁にして。城南神社白河帝成菩提院の陵及不動堂根來覺は上人法城鎮護の爲皇に信せふれ玉之を安す より安樂壽院に至る。凡此邊皆白川鳥羽二帝の離宮なる。鳥羽殿の跡にして本院は即其内の佛堂ありき。今鳥羽帝法華堂及美福門院近衛帝の御塔あり。

●伏見 京都の南三里にして。稻荷神社より。すれハ。藤森神社墨染寺及墨染の遊里大石良雄の遊ひし處を經て達すへく。鳥羽よりすれは。安樂壽院の東南七八丁にすぎす。桃山城跡は市街の東方木幡山にあり。文祿中秀吉之を城きて聚樂邸より移る關原の役前燒けて德川氏の時ハ今の城跡の西に大坂工兵營所の地に奉行を置けり。今堀内村に屬す。石田治部少輔の故跡。及二の丸本丸紅雪堀等の名存在し。金色の古冤往々土中より出つ。二の丸の上に金城閣茶亭あり。此邊望尤佳にして。北は京都鳥羽を始め。西は山崎淀八幡南は淀河巨椋池遙に摂津河内を望み。東は宇治を眼下に觀て。一眺千里誠に天下形勝の地。座ろに人をして當年英雄の畫策を感せしむ。桓武帝柏原の陵は城跡の西にあり。寺田屋は文久二年四月島津久光の臣勤王家有馬新七等を殺せし處淀川の岸舟場の近傍にあり。

●宇治 世に宇治と唱ふるは。宇治郡日野村の南木幡邊より。久世郡宇治町までにて伏見よりすれは。木津川の堤を東すること七十丁にして達し。醒醐よりすれは。日野の薬師を經廿余丁にして。木幡に達す。木幡は伏見の東面に當りて。往昔藤原氏の領地ありしかは。其別莊の故跡。及道長道隆賴通冬嗣。并に同家出身の后妃の陵墓等多く。大字六地山藏正行寺には正行の首塚と云あり。黄檗山万福寺は。大和田村妙高山の西麓にあり。木幡より十余丁に過ぎす。即隱元和尚の開基にして。隱元は明朝の遺臣にて本名は。德川家綱の時草創せし。禪宗黄檗派の本山なり。諸堂魏然として境内を埋め。柱楣各扁聯を掲け。福州の隆琦と云へる英傑なり宛然支那の寺院の如し。有名なる鉄眼和尚の勸化せし。一切經版尚現存し。明人范道生の作と稱する佛体本堂の十八羅漢十八体及釋迦天王殿の彌勒四天王等は。皆非常の傑作にして。探幽常信益信筆の東壁烈祖像三十巾。及隱元贊の逸然禪師筆に係る十八羅漢十八巾等。稀有の者なり。「これより南四五丁にして。宇治川の岸に出つ。街道の西側河上に菟道稚郎子墓あり。稚郎子の母は茲に住す」宇治川は源を琵琶湖に發し。淀川の上流たり宇治橋は大化二年の創設にして。今長八十間あり。南北兩岸所謂宇治町にして。旅店商家相連り。山水明媚にして尤嘯望に富む。北岸には橋寺あり。日本三碑の一と稱する宇治橋の斷碑今尚存す。銘に大化二年元橋を架せし事を記す。其寺に離宮八幡皇極帝心既發心開基興寺道登のこの離宮宇治の綱代を禁斷せし十三重の石塔弘安七年禁止の僵れたるを見る。南岸には有名なる平等院お

り。院は河原左大臣。及藤原道長頼通等の別莊の趾にて。永承七年頼通の建立せし處なり。境内の阿彌陀堂は。其屋風本堂の後に長廊あり左右に閣あり。鳳凰堂と云ひ。屋根は恰も鳳凰の体と翼と尾の如しによりて。鳳凰堂と云ひ。屋上に又黄銅の鳳一双を置く。堂内天井及本尊の瓔珞須彌壇摩石等は。七寶を鏤め。螺鈿を塡め。扉に八琢磨爲成の佛畫。及源俊房筆の色紙形の銘あり。本尊丈六の彌陀及小佛五十体八。定朝の作にて。建築繪畫彫刻の精美。一世の粹を一堂に集めたり。此地は源頼政以仁王を奉じ。平家の兵を防きし古戦場なるを以て。今境内に扇の芝あり。但頼政は南都に逃る〜途綺田村にて死せし事。當時の記錄に見ふれは。則この扇の芝は後人の偽作せしものと知るへし。抑宇治は日本茶業の本場にして菱木上林等著名の舊家皆之を業とす

●西山　乙訓郡の西方にして。古跡多し。繼体帝弟國の都趾は今の乙訓村にて。久我畷は名越高家戦死の地。藤氏の氏神大原野神社八大原野村にあり。十輪寺は小塩村にありて。業平丹丁の塔あり。西國二十番の札所良峰寺は。善法山にあり。淨土宗西山派の一本山光明寺は。熊谷蓮生の開基にて。粟生村にあり。眼病祈願の靈地柳谷觀音は。海印寺村にあり。桓武帝長岡の都趾は新神足村長岡天神の近傍にあり。

●山崎　京都の南九哩。乙訓郡の最南にあり。西に天王山を負ひ。東に淀川を控へて遥に男山と對し。地勢狹窄。山城二州の國界に當り。京都の咽喉たり。故に古來事あれば。必先茲に血を流さ〜るなし。寶寺は山腹にあり。行基菩薩の建立にて。境内尤眺望に富む。此地の數南丁に惟喬親王及後鳥羽帝の水無瀬宮の趾あり。今攝(平島上郡廣瀬村)

●男山八幡宮　山崎ステーションの南六七丁。淀の西凡半里。淀河の東南岸に聳へたる。一堆の丘陵は。即男山にして。一名を鳩ヶ峰と云ひ。眞觀中南都大安寺の沙門行教。宇佐八幡宮を觀請せし處なり岩清水八幡宮と云へるもの是なり。本社は山上にありて社殿精麗其雨樋は黄金にて作り渡金長十三間あり。山腹尤遠望に富み。市街は山下に連りて。宿屋遊客店數十戸あり。此十余丁山崎の對岸に。橋本町あり。古は遊女の客を曳くものありしも。今は鉄道の開通によりて河舟大に衰へ爲に此驛亦寂莫たり。

●櫻井驛　八幡の西北廿丁許攝津島上郡島本村にあり。山崎ステーションを發して。行くこと二三分にして車窓より望ひときは。東方數間に之を認むるを得へし。一株の老松蕭然として聳へ。數尺の石碑其下に峙てり。表に大坂府知事渡邊昇の筆にて「楠公訣兒之處」と題し。裏には本邦英國駐在公使パークスの撰にて「此所は忠臣正成公の其子に訣れたる地なれは敬意を致すと云ふ如き意を含める」短文の英字を刻せり。即太平記に所謂。

延元元年五月正成湊川出陣の前。其子正行を此地より。河内に遣歸せし著名なる舊蹟なり。

●筒城宮趾　綴喜郡普賢寺村大字多々羅村の西北與戸村の境に。南北山を限り。中に平衍數丁の地あり。都谷と云。即仁德帝皇后磐之媛の隱れし筒城の宮にて。繼体帝の都せし所も亦此地なり。天正十年穴山梅雪の。土兵に殺されしも此村なり。

此地崇神紀に見ふる處の武埴安彦の。官軍の將彦國葺と戰ひし。羽振園村祝園。伽和羅東川原西川原。木津川の木津。及井手左大臣橘諸兄別莊の地井手村東觀音寺の南に北。及有王村。桃川の渡邊なふん。大塚南大塚あり此あり。井手村の東にあり後醍醐。猿丸太夫隱棲の舊跡猿丸越に其洞あり。與山に紅葉子み分け鳴山。帝の賊に捕へふれし處。鹿の云々といへる歌は此地にてよめるなり。信西の死處等見るべき處郡中に多し。

●恭仁の都趾　相樂郡賀茂瓶原木津上柏樂の諸村の地にして。賀世山を以て。西京の左京堺とせしなり。天平十三年聖武帝の都せし處是なり。木津川を隔てて北岸に。和銅六年元明帝行幸の瓶原あり。又此瓶原の大字西村の一山下に。古歌に名高き柞の森あり。又瓶原の東和束村鷲峰山金胎寺あり役行者の開基にて元弘の乱後醍醐帝の笠置に入る前駐蹕せし王古跡なり。綺田。相樂郡棚倉村の大字綺田の大字鳥居は。即。治承四年の變。以仁王の戰死し王ひし。「光明山寺の鳥居の前」と古書に云へる處にして。今此東六七町に高倉神社あり。即王を祀る者なり。有名なる蠻滿。も。此綺田にありて眞言宗に屬し。尊本尊釋迦佛は天下に著名なるものなり。

●笠置山　京都を距ること。十三里木津川の上流に當りて笠置村あり。河北を北笠置。河。を、笠置と云。山は即、笠置にりて。今文殊院福壽院等の、院僅に存し。解脫上人の開基にして。後醍醐帝の、兵を防き王ひし古跡を以て著はる。皇居の趾。具吹岩。足助次郎遠矢の趾。仁王門の趾。本丸二の丸の趾等。皆當年の古跡なり。

明治廿八年四月二十一日印刷
同　年同月二十五日發行

著作兼發行者　京都上京區仁王門通大蒲町四十九番戶五号　廣池千九郎
印刷者　滋賀縣滋賀郡大津町大字桝屋三十二番戶　原田敬重
發行所　京都上京區仁王門通四十九番戶五号　史學普及雜誌社
發賣所　京都上京區二條通鴨川東入覆盆子場西二丁余　福尾商店

特別廣告

桓武天皇御眞影

巨勢金岡五代之孫
巨勢弘高眞筆

大書簽紙半切。掛物用。古雅高潔尤奪し。定價十二錢
郵稅二錢

右は故ありて。本社より聊有識の士に相頒ち。續々學者賞賞の間に珍重せらるゝを以て。今回更に二百葉を印行し。其殘葉五十枚許あり。御注文に應す。

發行所 史學普及雜誌社
取次所 福尾 石田 其他

廣告

各國諸革類販賣處

京市日本橋區上槇町三番地
嵩林商店

各國提カバン販賣所

京市京橋區傳馬町三丁目五番地
林保五郎

謹告

旅館
料理一切
名物汁粉
藤島產物類

右特別廉價叮嚀ヲ主トス
海岸ニ於テ同姓有之候間必楓伊藤ト尋ヲ乞

廣島縣安芸國藤島楓谷
伊藤春房事
雲錦樓

博覽會々場明細案内

日本博覽會沿革

地は豐饒にして。農產に富み。海は暖和にして。魚蘖の利多く。而して人は智巧にして。工藝美術の道に長する我日本は。開國以來僅に數十年にして。明治十年。既に第一回の內國勸業博覽會を。東京上野公園に開き。以て此天產人爲の物產を改良せん事を圖る。かくて。二回を十四年に。三回を廿三年に。四回を即今年に開き。從來東京を以て會場と定めしも。特に輿論は。今回京都を以て適當となし。上京區尙崎町舊六勝寺の址。東山の麓疏水の北岸。最山紫水明の秀を擅めたる處に。其場を卜定せられたり。

會期

明治廿八年四月一日より。七月廿一日まで。全四ヶ月間にして。獨動物館は。五月一日より十五日まで。五月廿六日より六月九日まで。二回凡卅日間とせり。而して初終二回。天皇陛下御親臨ありて。開會場には山階宮御臨場あり。開會閉會の式を擧げ。七月十二日には。出品優等人に褒賞授與式を行ふ。

入場券代價

嗚呼廉なる哉。日曜日一人拾錢。土曜一人三錢。平日は五錢にして。全會場を見るを得。

入場注意

會場は午前八時に開き。午後七時に閉ず。携帶物は方一尺余以上のものは。大抵携帶を許さゝれば。成るべく徒手にて入るを可とす。(但携帶物あれば入口の處にて預かる處あれは之に預くべし)而して美術館に入るには。特に洋靴を穿つ時は。甚便利ありと知るべし

博覽會々場明

日本博覽會沿革

地は豐饒にして。魚蝶の利多く。而して人は智巧にして。工藝美術の道に
に數千年にして。明治十年。既に第一回の內國勸業博覽
此天產人爲の物產を改良せん事を圖る。かくて。二回を
四回を即今年に開き。從來東京を以て會場と定めしも。
適當とおし。上京區岡崎町舊六勝寺の趾。東山の麓疏水
めたる處に。其場を卜定せられたり。

會期

明治廿八年四月一日より。七月卅一日まで
館は。五月一日より十五日まで。五月廿六日より六月九
。而して初終二回。天皇陛下御親臨ありて。宮御臨場あ
月十二日には。出品優等人に褒賞授與式を行ふ。

入場券代價

嗚呼廉なる哉。日曜日一人拾
錢にして。全會場を見るを得。

入場注意

會場は午前八時に開き。午後七時
上のものは大悪携帶を許さゝれば。成るべく徒手にて
て預かる處あれ)而して美術館に入るには。特に洋靴を
は之に預くべし

會場位置

會場は南面にして。後に平安宮の
を遶ゆし。東左一帶平野にして。遙に如意の大文字山に
林器械水產の三館。其後にあり。動物館東にあり。而
て更に農林器械水產三館の後にあり。

會場內

會場の出入口は。南表門。北裏門
ありとす。先表門より入るものとして案內せんに。疏水
より。會場正面の蹴流橋を渡れば。即會場の境內となん
す。(獨工藝美術の中心たる京都の賣店は慶流橋の南岸
は噴水池あり。池中の人物は石膏にて作り。大熊氏廣氏
より北正面に進めば。眺望閣の下に至る。左右に入場券
あり。入場券を持ちて先入りたる所。即工業館あり。之
に折れ。又東に折れ。更に南に折れ。之より南に曲りて
の處に遊ぶんとする所より二階に上り。之より眺望閣に
へ。東は翠如意が嶽。東石倉山。疏水インクライン。南
黑谷。眞如堂。南は粟田院。西は京都の全市
人會場を呼はさるなり。之より下る頃は既に必正午に
場內には。かねて工藝館の中央。旅園中。及其東方等。
當店。料理屋。すし屋。めん類店。菓子しるこ店。氷店
きて自在に休息すへし。

既に休息を終ふれは。完西の方。農林館より始めて。更に
なり。北美術館の方に行くべし。
美術館の正面には眺亦れあり。其龍口の彫刻は。漆喰な

此天産人爲の物産を改良せん事を圖るべかりしなり。二回を四回を即今年に開き。從來東京を以て會場と定めしも。適當とあし。上京區尚崎町舊六勝寺の趾。東山の麓疏水のめたる處に。其場を卜定せられたり。

會期

明治廿八年四月一日より。七月卅一日まで。

會場は。五月一日より十五日まで。五月廿六日より六月九日。而して初終二回。天皇陛下御親臨ありて。開會場には月十二日には。出品優等人に褒賞授與式を行ふ。

入場券代價

嗚呼廉なる哉。日曜日一人拾錢にして。全會場を見るを得。

入場注意

會場は午前八時に開き。午後七時上のものは。大荷携帶を許さゞれば。成るべく徒手にして預かる處あれは之に預くべし）而して美術館に入るには。特に洋靴を

會場位置

會場は南面にして。後に平安宮の

を遶らし。東左一帶平野にして。遙に如意の大文字山に林器械水産の三館。其後にあり。動物館東にあり。而して更に農林器械水産三館の後にあり。

會場內

會場の出入口は。南表門。北裏門ありとす。先表門より入るものとして案內せんに。疏水より。會場正面の慶流橋を渡れば。即會場の境內となる。（橋上藝美術の中心たる京都の賣店は慶流橋の南岸には噴水池あり。池中の人物は石膏にて作り。大熊氏廣氏より北正面に進めば。眺望閣の下に至る。左右に入場券あり。入場券を持ちて先入りたる所。即工業館なり。之に折れ。又東に折れ。更に南に折れ。之より南に曲りて。の處に遊ぶんとする所より二階に上り。之より眺望閣にへ。東は翠如意ヶ嶽。東石倉山。疏水インクライン。南禪寺。黒谷。眞如堂。南は粟田院。西は京都の全市人會場設を呼はさるなり。之より下る頃は既に必正午に場內には。かねて工業館の中央。旅園中。及其東方等。當店。料理屋。すし屋。めん類店。菓子しるこ店。氷店きて自在に休息すへし。

既に休息を終りて。完西の方。農林館より始めて。更に東側館の正面には噴水池あり。其龍口の彫刻は。漆喰の右東前にある一美屋は。即開場閉場の式場にして。其壁に掲るものを必一拜すべし。

館は。北方に廣大なり。故にて「はき物」及携帶物を。て之より入りて。階下を一覽し。更に階上を一覽して。

出品

總數二十万八千七百十三点。此出品人八万

出品は出品十九万四千二百五十六人員。著しく衆目を惹くも六万九千八百八十六人の增加あり。

助氏の一万五千圓の金屏風。及驛阜縣名和靖氏の動物氏の陰門を現せる裸体美人圖鏡の油絵等あり。

會場の廣

工業館建坪四千二百坪。內陳列館八百五十

博覽會會場明細案内

本博覽會沿革

地は豐饒にして。農産に富み。海は穏和にして。の利多く。而して人は智巧にして。工藝美術の道に長する我日本は。開國以來僅十年にして。明治十年。既に第一回の内國勸業博覽會を。東京上野公園に開き。以て産人爲の物産を改良せん事を圖る。かくて。二回を十四年に。三回を廿三年に。を即今年に開き。從來東京を以て會場と定めしも。特に輿論は。今回京都を以て。とをし。上京區尚崎町舊六勝寺の址。東山の麓疏水の北岸。最山紫水明の秀を擅る處に。其場を卜定せられたり。

期

明治廿八年四月一日より。七月廿一日まで。全四ヶ月間にして。獨勸物五月一日より十五日まで。五月廿六日より六月九日まで。二回凡拂日間とせり。して初終二回。天皇陛下御親臨ありて。開會場には山階宮御臨場ありて。閉會の式を擧げ。七日には。出品優等人に褒賞授與式を行ふ。

場券代價

嗚呼廉なる哉。日曜日一人拾錢。土曜一人三錢。平日は五。して。全會場を見るを得。

場注意

會場は午前八時に開き。午後七時に閉づ。携帶物は方一尺余以ものは。大抵携帶を許さゞれば。成るべく徒手にて入るを可とす。(但携帶物あるかる處あれば入口の處に預くべし)而して美術館に入るには。特に洋靴を穿つ時は。甚便利ありと知るべ

場位置

會場は南面にして。後に平安宮の境内を控へ。前と右とに疏水。に。東左一帶平野にして。遙に如意の大文字山に對し。工藝館最南にあり。農林水産の三館。其後にあり。動物館東にあり。而して平安宮と美術館は。相並び。農林器械水産三館の後にあり。

場内

會場の出入口は。南表門。北裏門。東門。及廣道門の四ヶ所にと。先表門より入るものとして案内せんに。疏水の南岸。茶店見世物雜踏の間。會場正面の鹿流橋を渡れば。即會場の境内となる。茲に左右に各府縣の賣店あ。獨上藝美術の中心たる京都の賣店は鹿流橋の南岸にあり注意せよ)而して中央に。池あり。池中の人物は石膏にて作り。大熊氏廣氏の鉄腕にあれるものと云。之。北正面に進めば。眺望閣の下に至る。左右に入場券を賣る所。及携帶物預かり所。入場券を持ちて先入りたる所。即工業館あり。之より道を左西に取りて進み北。又東に折れ。更に南に折れ。之より南に曲りて。工藝館を一覽し終り。再元。に戻らんとする所より二階に上り。之より眺望閣に上るべし。閣は高く雲表に聳。東は翠如意が嶽。東右の山。疏水インクライン。南禪寺。永觀堂。北は則神樂岡。眞如堂。南は粟田。西は京都の全市街。只一望の中にありて。登。

場

遊。智恩院。院。之より下る頃は既に必正午に及ばん。

にはかねて工藝館の中央。旅園中。及其東方等。各所に喫茶店。和洋酒店。弁料理店。すし屋。めん類店。菓子しるこ店。氷店。菓物店。等あれば。之につ。目位に休息すべし。

休息を終りて。西の方。農林館より始めて。更に東機械館水産館を一覽し。終。北美術館の方に行くべし。

今年に開き。從來東京を以て會場と定めしも。特に輿論は。今回京都を以てし。上京區尚崎町舊六勝寺の趾。東山の麓疏水の北岸。最山紫水明の秀を鍾に。其場を卜定せられたり。

明治廿八年四月一日より。七月卅一日まで。全四ヶ月間にして。獨動物月一日より十五日まで。五月廿六日より六月九日まで。二回凡卅日間とせり初終二回。天皇陛下御親臨ありて。開會場には山階宮御臨場あり。開會閉會の式を擧げ。七には。出品優等人に褒賞授與式を行ふ。

券代價

嗚呼廉なる哉。日曜日一人拾錢。土曜一人三錢。平日は五

注意

全會場を見るを得。

會場は午前八時に開き。午後七時に閉づ。携帶物は方一尺余以上。大巡携帶を許されば。成るべく徒手にて入るを可とす。（但携帶物あるは入口の處に處あれば）而して美術館に入るには。特に洋靴を穿つ時は。甚便利ありと知るべし）

位置

會場は南面にして。後に平安宮の境内を控へ。前と右とに疏水あり。東左一帶平野にして。遙に如意の大文字山に對し。工藝館最南にあり。農林産の三館。其後にあり。動物館東にあり。而して平安宮と美術館は。相並び農林器械水産三館の後にあり。

内

會場の出入口は。南表門。北裏門。東門。及廣道門の四ヶ所にあり。先表門より入るものとして案内せんに。疏水の南岸。茶店見世物雜踏の間會場正面の慶流橋を渡れば。即會場の境内となる。茲に左右に各府縣の賣店あり。美術館の中心たる京都の賣店は慶流橋の南岸にあり注意せよ）而して中央に池あり。池中の人物は石膏にて作り。大熊氏廣氏の鉄腕にあれるものと云。之正面に進めば。眺望閣の下に至る。左右に入場券を賣る所。及携帶物預かり所入場券を持ちて先入りたる所。即工業館あり。之より道を左西に取りて進み北及東に折れ。更に南に折れ。之より南に曲りて。工藝館を一覽し終り。再元進んとする所より二階に上り。之より眺望閣に上るべし。閣は高く雲表に聳は則如意ヶ嶽。東右の山。疏水インクライン。南禪寺。永觀堂。北は則神樂岡。其如堂。南は粟田。青蓮院。智恩院。西は京都の全市街。只一望の中にありて。登臨を呼はさるなし。之より下る頃は既に必正午に及ばん。

はじめかねて工藝館の中央。旅園中。及其東方等。各所に喫茶店。和洋酒店。弁料理店。すし店。めん類店。菓子しるこ店。氷店。菓物店。等あれば。之につ在に休息すへし。

之を終りて。先西の方。農林館より始めて。更に東機械館水産館を一覽し。終北美術館の方に行くべし。

○出口には既に出たり。其龍口の彫刻は。漆喰なり。此左右に奏樂所あり。館前にある一美屋は。即開場閉場の式場にして。其高壇は。天皇陛下の玉座あり。

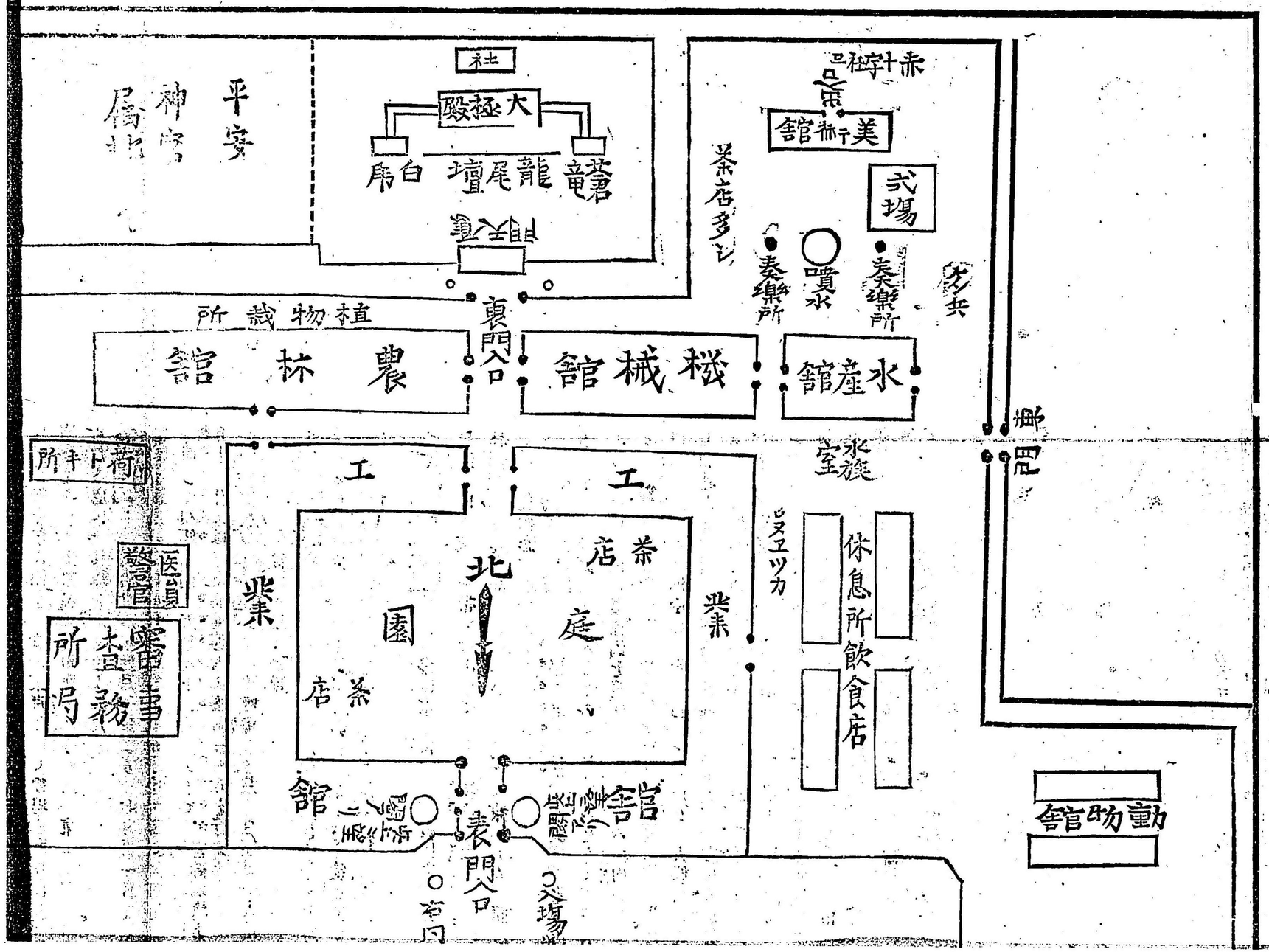
○北方に階段あり。登るものは必一拜すべし。

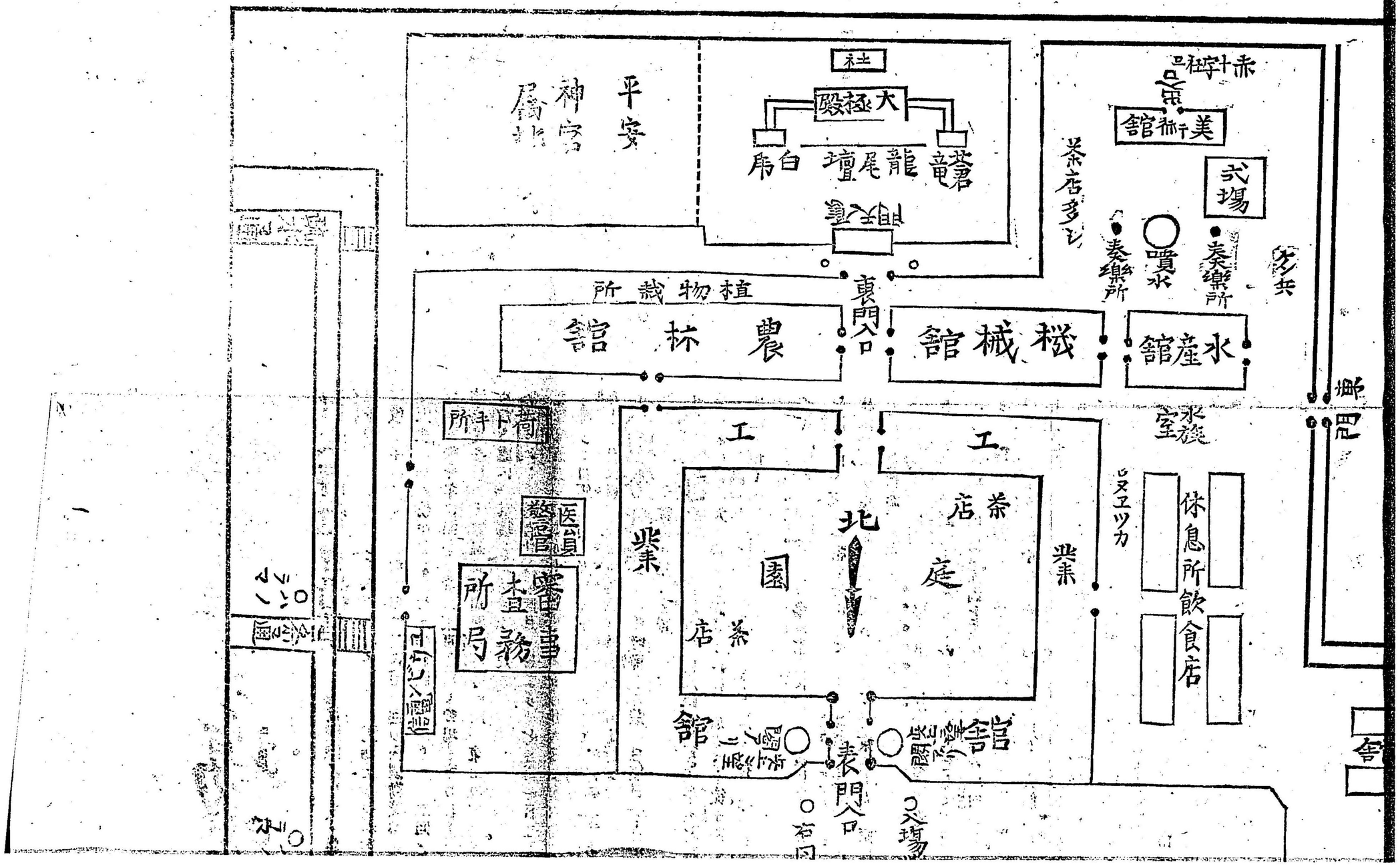
北方に階段あり。登にて「はき物」及携帶物を。賃金を拂ふて預くべし。而しり入りて。階下を一覽し。更に階上を一覽して。出つるを巡路とす。

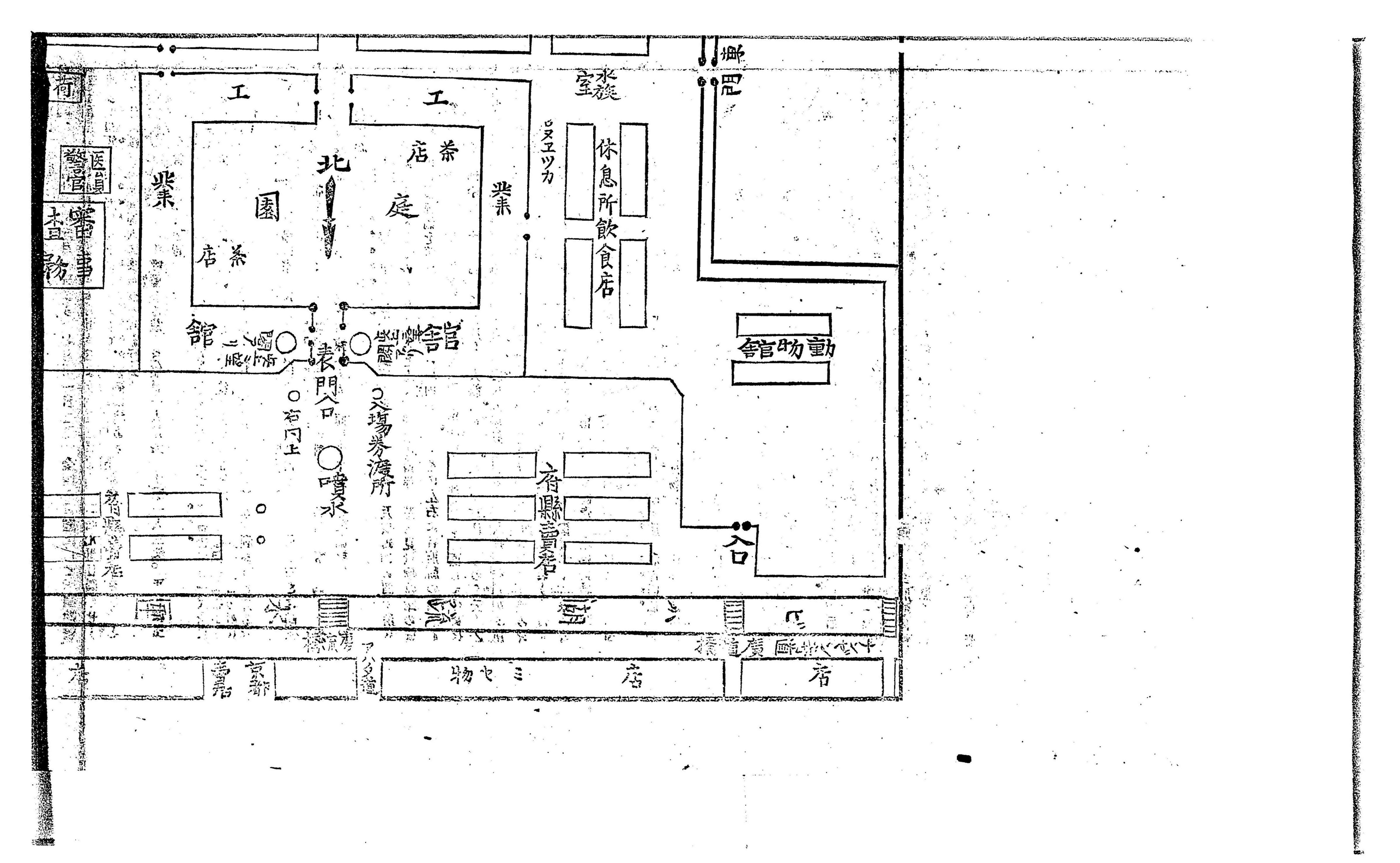
總數二十万八千七百十三点。此出品人八万六千六十名にして。第一回の品十九万四千二百五十八人員に比すること千八百八十六人の增加あり。著しく衆目を惹くものは。工藝館内京都府池田清一万五千圓の金屏風。及濃尾大地震縣名和靖氏の動物標品。美術館の東京府黑田清輝門を現せる裸体美人圖鏡の油畫等あり。

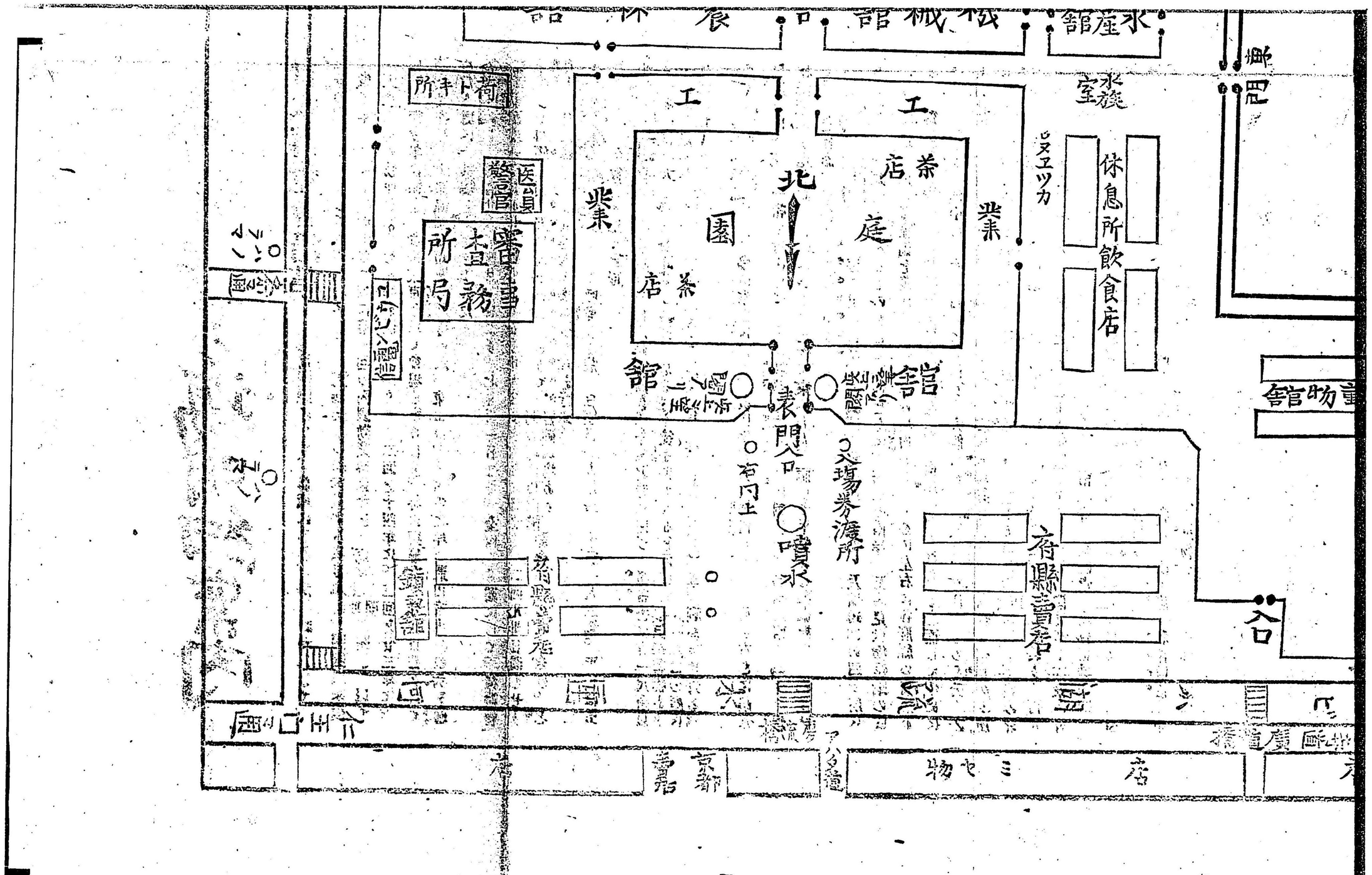
場の廣

工藝館建坪四千二百坪。内陳列館三千。農林館千四百四十坪。器械館[illegible]坪。水産館[illegible]坪。美術館[illegible]坪。動物[illegible]坪。

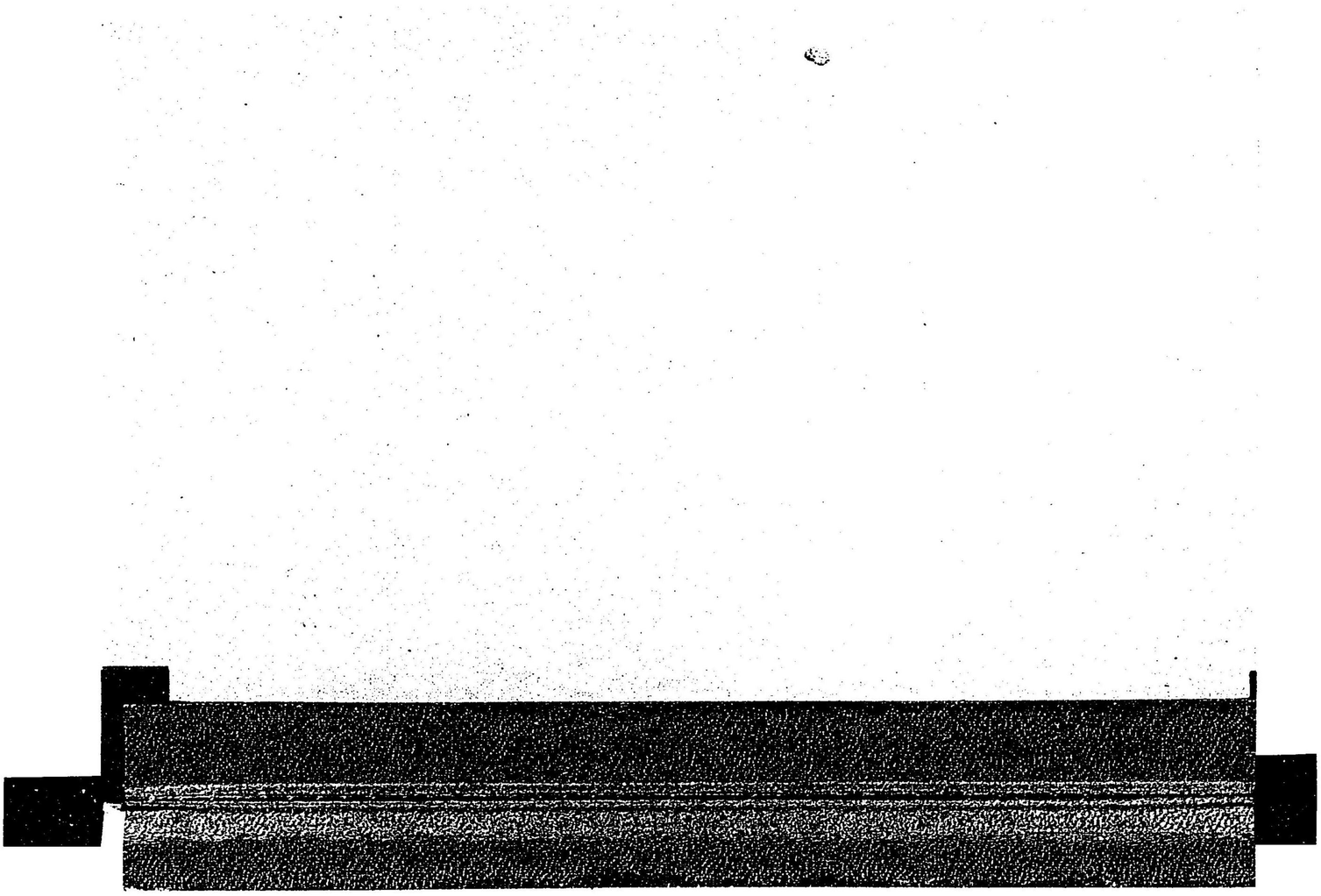

平安
神宮
社
大極殿
白虎
龍尾壇
玄武
赤十字社
美術館
式場
茶店多シ
噴水
奏樂所
奏樂所
兵
裏門入口
植物園
農林館
機械館
水産館
水族室
郵便
荷物所
工
工
北
園
茶店
庭
茶店
柴
柴
休息所飲食店
ビヤヒツカ
動物館
醫員
警官
審査事務所
館
宮舞
表門入口
入場


平安神宮
社
大極殿
白虎
龍尾壇
蒼龍
赤十字社
美術館
式場
茶店多し
噴水
奏樂所
奏樂所
兵
植物栽培所
農林館
裏門入口
機械館
水産館
水族室
郵便
荷物所
工
工
茶店
園
北
茶店
庭
茶店
休息所飲食店
醫員
警官
警察事務所
館
表門入口
館
入場
舍


荷
医員
警官
事務
工
工
北
園
庭
茶店
茶店
柴
柴
水族室
ロヌエツカ
休息所飲食店
郵便
動物館
館
表門入口
入場券渡所
噴水
右円上
京都
物ヒミ
店
店


水族館
水族室
郵便
休息所飲食店
茶店
庭園
北
工
工
茶店
非売
非売
荷物所
医員
警官
警察事務所
館
宮
表門入口
噴水
入場券渡所
有縁賣店
入口
物産館
京都
有縁賣店
物産

荷物引渡所
警視庁
捜査
事務所
市役所
市役所
市役所



歴史美術名勝古跡 京都案内記

国立国会図書館

特6

025310-000-2

特49-636

京都案内記（歴史美術名勝古跡）

広池　千九郎／著

M28

ADC-2744